

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 R Q D cm └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N 値 ~ 深度) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアカチュウノビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																			
														(N 値)	(深度)																														
120	77.18 77.30	119.14 119.30	花崗斑岩 アブライト	花崗斑岩 アブライト	IIIg IVg Dg	bg cg	γ	2	δ	119.14~119.30m: アブライトである。 119.30~180.00m: 花崗斑岩である。 120.10~125.90m: 硬質で割れ目が少ない柱状コアが主体となる。割れ目面もほぼ新鮮である。 122.61m: 傾斜60°の割れ目に幅2mmで褐色の砂を挟む。 125.90~128.05m: 硬質だが、ゆる割れ目が開口するものが多い。 127.15~127.50m: 傾斜20~90°のゆる割れ目数が多い約10mm間隔で平行に分布する。 128.05~128.78m: 硬質で割れ目が少ない。 128.78m: 傾斜33°の割れ目に幅1~4mmで砂や礫を挟む。 ●129.84~129.91m: 破砕部 破砕幅は5.90mである。 129.84~129.85m: 凝滞り粘土状を呈する。緑灰色の固結した粘土状部からなる。傾斜は70°である。 129.85~129.91m: 粘土混じり礫状を呈し、灰白色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は60~70°である。 131.27~132.41m: 硬質で割れ目が少ない長柱状コアを呈する。ゆる割れ目が多い。 132.41~134.33m: 硬質であるが割れ目が多い。 134.33~141.97m: 硬質で割れ目が少ない柱状コアが主体となる。一部割れ目沿いに片状化している。緑泥石脈、石英脈が分布する。 137.52~137.62m: 石英と褐色の長石の巨晶が晶出する。 139.37m: 傾斜70°、幅2~3mmの緑泥石脈に石英と微細な黄鉄鉱が晶出する。 139.39~139.96m: 硬質だが割れ目がやや多い。短柱状コアが主体となる。 139.96~141.97m: 硬質で割れ目が少ない柱状コアが主体となる。 141.97~147.08m: 硬質であるが割れ目がやや多く短柱状コアが主体となる。一部割れ目沿いに細片化している。 142.70~142.76m: 緑泥石化で淡緑灰色に変化する。	0 50 100 21 [136] 100 32 [65] 100 25 [78] 100 23 [78] 100 29 [91] 100 29 [47] 100 19 [79] 100 12 [34] 100 18 [23] 100 20 [34] 100 18 [20] 100 24 [100] 100 21 [37] 100 25 [25] 100 11 [11] 100 16 [20] 100 23 [59] 100 15 [71] 100 27 [72] 100 52 [52] 100 30 [34] 100 16 [48] 100 14 [14] 100	CH' CL' CH' CH' CM' CH' CM' CL' CM' CH' CH' CM' CH' CH' CM'																																	
																																					103	6/22	69	80.0	80.0	20.0	0.1	泥水10	10
																																					42		14	80.0	80.0	80.0	0.2	泥水20	5
																																					26	6/23	36	80.0	80.0	100.0	0.1	泥水10	10
																																					60		60	60.0	60.0	60.0	0.2	泥水18	5
																																					56	6/24	72	30.0	30.0	150	0.1	泥水10	0
																																					72		50	80.0	80.0	80.0	0.2	泥水15	5
																																					29		40	50.0	50.0	50.0	0.1	泥水10	0
																																					40	6/25	51	80.0	80.0	80.0	0.2	泥水15	5
																																					45	6/24	55	80.0	80.0	80.0	0.2	泥水15	5

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (N) 値 測定月日	標準貫入 (試験) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 月日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm)	コアチューブ ノズル	給 水 圧 (MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																				
														(N 値 ~ 深度)	(図)																														
		150	花崗斑岩	灰褐			IVg			143.48~144.50m: 径2~3mmのかり長石斑晶が上下位よりも多く晶出する。	10	CM'				55	6/28	34	55	86 泥水	50.0	150	0.1	泥水 10	0	5																			
		144.61~144.68m: 傾斜40~55°のゆる割れ目が密集する。多くが開口しやすい。								8	1																																		
		145.88m: 傾斜70°のゆる割れ目沿いに幅10mmで緑灰色化している。								13																																			
		147.08~150.59m: 硬質で割れ目少なく柱状コアが主体となる。全体にほぼ未風化で新鮮である。								23																																			
		148.78m: 傾斜65°の割れ目に幅1mmの緑泥石が固結フィルム状に付着する。								13																																			
		150.04~150.59m: 傾斜50~80°, 幅0.5mm以下の緑泥石脈が多く分布する。								15																																			
		150.41m: 緑泥石脈中に幅10mmの石英をレンズ状に伴う。								26																																			
		152.23~156.18m: 硬質で割れ目が少ない長柱状コアが主体となる。								43																																			
		154.42~154.60m: 緑泥石化が進むが硬質である。								36																																			
		154.60~156.19m: 硬質で割れ目が少ない長柱状コアを呈する。 155.25m以深: ゆる割れ目が多い。								21																																			
		155.25~156.19m: 傾斜60~70°の白色を呈すゆる割れ目が多い。	30																																										
		156.18~160.40m: 硬質で割れ目が少ない柱状~長柱状コアを呈する。ゆる割れ目の一部は緑泥石化する。	27																																										
		158.54~160.32m: 緑泥石化が進み暗緑灰色化する。	32																																										
		160.40~162.57m: 硬質で割れ目が少ない柱状コアを呈する。	22																																										
		161.70~169.00m: 割れ目交差部の一部で片状化する。	16																																										
		162.57~166.65m: 割れ目が少ない長柱状コアを呈する。	37																																										
		164.00~164.30m: 径10mmと大型のかり長石と緑泥石が混在する。	49																																										
		164.94m: 傾斜75°の密着割れ目の上盤側に幅20mmの石英脈が緑泥石を伴って分布する。	46																																										
		166.65~169.66m: 硬質で割れ目が少ない柱状コアが主体となる。全体に緑泥石化が進み径2~3mmの緑泥石が斑点状に晶出する。	63																																										
			36																																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 / 測定月日 (m)	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平器)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
170				花崗斑岩				Ⅲg	β	2	<p>169.66~172.69m: 硬質で割れ目が少ない長柱状コアを呈する。一部で緑泥石化が進むが硬質である。</p> <p>172.32~172.53m: 径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が幅0.5~1mmの石英脈とともに分布する。</p> <p>172.69~176.50m: 割れ目が少ない柱状コアが主体となる。174.13~175.55mはさらに割れ目が少ない長柱状コアを呈する。全体に白色を呈するゆる割れ目を含む。</p> <p>176.50~176.79m: 周囲に比べ軟化する。全体が割れ目交差部で岩片状~短柱状コアを呈する。一部で傾斜30°の割れ目沿いに風化する。</p> <p>176.79~180.00m: 割れ目が少ない長柱状コアが主体となる。</p> <p>177.65m: 傾斜35° 幅2~3mmの石英脈が密着して分布する。</p> <p>178.33~178.40m: 径5~10mmで岩片化している。</p>																								
								褐灰				Ⅱg				CH'			90													0.2	泥水 18	10	
								褐灰				Bg				B'			75																
								にふい褐				Ⅲg				CH'			6/30										86 / 泥水	56.0	150	0.1	泥水 10	0	
								褐灰				Ⅱg				B'			88																
120.22	180.00			γ				CH'																0.2	泥水 20	10									
				Ⅲg				B'																											
								CH'																	0.2	泥水 20	0								

ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo.									1
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	---

事業・工事名

ボーリング名	H27-B-4		調査位置		北緯	
発注機関				調査期間		東経
調査業者名	主任技師			現代理人		ボーリング者
コ監定者	ハンマー落下用具		ポンプ			
孔口標高	6.95 m	角	180°	方	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	
総掘削長	140.00 m	度	90°	地盤勾配	水平 0°	鉛直 0.0°
試錐機						
エンジン						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
														(N値~深度) 図	(N)	(N)	(N)	(N)														
				盛土					0.00~13.75m: 盛土である。 0.22m以浅は砕石、以深は礫混じり砂~砂礫からなる。	0	50				0	10	20	30	40	50												
10				明黄褐					5/28						92								140 / ケーシング			0.1	泥水 4	4	0			
				盛土					5/29						88										0.1	泥水 2	0					
				明黄褐					5/30						120										0.1	泥水 4	0					
				盛土					5/31						35								ダブルコアチップ / ダイヤモンドビット	20.0			0.1	泥水 2	0			
				花崗斑岩					6/1						40								115 / ケーシング			0.1	泥水 4	0				
				にぶい黄橙			2		13.75~140.00m: 花崗斑岩である。破碎、風化、変質で114.00m付近まで軟化、114.00m付近以深は硬質な岩盤が主体となる。13.75~14.67m: 強風化部で、割れ目の多くは消滅する。 ●15.91~16.36m: 破碎帯(D-1) 破碎帯は31.8cmである。 15.91~16.12m: 砂混じり礫状を呈する、灰褐色の割れ目の密集部からなる。上端境界の傾斜は72°である。 16.12~16.33m: 砂混じり礫状を呈し、灰褐色の固結した礫状部からなる。 16.33~16.36m: 淡黄色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は2.5cmである。上端境界の傾斜は75°、下端境界の傾斜は76°である。径2~3mmの花崗斑岩垂角礫を5~10%含む。 16.35m以深は、石英粒や岩片をわずかに含む。	1	(1)		D'															0.1	泥水 2	0		
				にぶい橙					6/2						40								86 / センテナギ	30.0		0.1	泥水 1	0				
				黄橙			3		6/3						60											0.1	泥水 4	0				
				淡黄緑					6/3						62																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	室内試験	給送水量 (L/分)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																															
													(N)	(値)																																																																																								
20	10.41	24.55	花崗斑岩	淡橙	淡黄橙	Vg, IVg, Dg, Cg	cg	δ, γ, δ, 3, γ, δ		17.03~17.86m: 低角度割れ目が多い。 18.70~20.00m: 風化した斜長石の大型斑晶が目立つ。 20.23~20.37m: 割れ目沿いの一部で細礫状を呈する。 22.18~27.38m: 中硬質部が主体で部分的に軟質となる。割れ目が多い岩片状~短柱状コアを呈する。 22.47~22.55m: 礫状コアとなる。	CL'	0, 5, 10, 15, 20, 25, 30, 35, 40, 45, 50	0, 10, 20, 30, 40, 50		6/3																																																																																							
24.55	11.07	25.48																											花崗斑岩	淡橙	IVg, Dg, Cg, Dg, Bg, Vg, IVg, Cg	cg	δ	24.55~25.48m: コア欠 25.96~26.19m: 周囲よりも軟質でコアの表面がザラつく。 27.38~27.85m: 硬質である。 27.85~29.65m: 中硬質で割れ目が多い岩片状~短柱状コアを呈する。	CL'	0, 5, 10, 15, 20, 25, 30, 35, 40, 45, 50	0, 10, 20, 30, 40, 50		6/4																																																															
25.48	11.07	25.48																																																		花崗斑岩	橙	Vg, Dg, IVg, Cg, Vg, IVg, Cg	cg	δ, 3, γ	●29.74~29.78m: 砕砕部 砕砕幅は3.7cmである。 29.74~29.76m: 砂混じり礫状を呈し、にぶい橙色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は70°である。上端はマンガン汚染を受ける。 29.76~29.78m: 粘土状を呈し、黒褐色の固結した粘土状部からなる。傾斜は67°である。 29.78~37.36m: 中硬質部が主体で割れ目が多い岩片状~短柱状コアを呈する。 31.77~31.93m: 低角度でほぼ並行する微細な割れ目が多い。 32.36~32.39m: 傾斜20~30°程度の割れ目が平行して集中する。 33.00~33.62m: 傾斜30~50°の割れ目が多く、割れ目沿いの砂状化が多い。	CL'	0, 5, 10, 15, 20, 25, 30, 35, 40, 45, 50	0, 10, 20, 30, 40, 50		6/6																																								
25.48	11.07	25.48																																																																												花崗斑岩	淡黄	IVg, Dg, Cg, Vg, IVg, Cg	cg	δ	35.60~35.78m: 低角度でほぼ平行する割れ目が集中し脆弱化している。割れ目沿いに白色鉱物脈を挟むことが多い。 36.98~37.10m: 高角度割れ目沿いに幅12mmで砂~細礫状を呈する。 37.36~38.85m: 硬質で割れ目が少ない柱状コアが主体となる。 37.98~38.27m: やや割れ目が多い短柱状コアを呈する。 38.85~39.84m: 中硬質と硬質部から成る。割れ目沿いに砂状化することが多い。 39.21m, 39.60~39.65m: 割れ目沿いに幅10mm以下で砂~細礫状化している。	CH'	0, 5, 10, 15, 20, 25, 30, 35, 40, 45, 50	0, 10, 20, 30, 40, 50		6/8														
25.48	11.07	25.48																																																																																																				
25.48	11.07	25.48		花崗斑岩	淡黄	IVg, Dg, Cg, Vg, IVg, Cg	cg	δ		CL'	0, 5, 10, 15, 20, 25, 30, 35, 40, 45, 50	0, 10, 20, 30, 40, 50		6/9																																																																																								
25.48	11.07	25.48																								花崗斑岩	淡黄	IVg, Dg, Cg, Vg, IVg, Cg	cg	δ		CL'	0, 5, 10, 15, 20, 25, 30, 35, 40, 45, 50	0, 10, 20, 30, 40, 50		6/9																																																																		
25.48	11.07	25.48																																														花崗斑岩	淡黄	IVg, Dg, Cg, Vg, IVg, Cg	cg	δ		CL'	0, 5, 10, 15, 20, 25, 30, 35, 40, 45, 50	0, 10, 20, 30, 40, 50		6/9																																												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																									
														N	値																																				
		50	花崗斑岩	にぶい橙	明黄橙	Vg	Vg	Vg	3	43.15~46.00m: 中硬質部が主体で部分的に軟質となる。割れ目が多い岩片状~短柱状コアを呈する。	CL'							6/10	32	20.0	ダブルコアチップ / タンク / マンホール / テンション	150	0.1	泥水4	0	0																									
		50								46.10~46.35m: 傾斜60~70°の割れ目が多い。																	CM'																								
		50								47.11~47.32m: 微細な割れ目が網目状に分布し軟化している。																	IVg																								
		50								48.39~48.43m: 破砕部 破砕幅は4.0cmである。																	cg	Vg	Vg	Vg	Vg	3	48.39~48.40m: 粘土状を呈し、にぶい橙色の固結した粘土状部からなる。上端、下端境界の傾斜はともに52°である。幅5~10mmで露縮する。	CL'																	
		50								48.40~48.43m: 砂混じり礫状を呈し、にぶい橙色の固結した砂状部からなる。下端境界の傾斜は45°である。径5~10mmの岩片と岩片間が風化で砂状化している。																							IVg																		
		50								48.43~50.39m: 岩片状~短柱状コアが主体となる。																	cg	Vg	Vg	Vg	Vg	3	49.18m: 傾斜63°の割れ目である。上盤側幅20mm細片状に劣化している。	CL'																	
		50								50.43~50.60m: 砂状で軟質である。																							IVg																		
		50								51.20~51.43m, 51.66~51.97m, 52.38~52.44m: 微細な割れ目が多く軟質となる。																	cg	Vg	Vg	Vg	Vg	3	54.66~54.73m: 傾斜50~60°のほぼ平行な2本の割れ目に囲まれて一部が礫状化している。	CL'																	
		50								56.45~56.61m: 低角度と高角度の割れ目が交差し亀甲状を呈する。																							IVg																		
		50								57.54~57.74m: 割れ目沿いに劣化し軟質となる。																	cg	Vg	Vg	Vg	Vg	3	58.62~59.62m: 硬質部が主体で割れ目が多い短柱状コアを呈する。	CM'																	
		50								59.02~59.34m: 長柱状コアを呈する。																							IVg																		
		50								59.62~63.90m: 中硬質部と軟質部が交互に分布する割れ目が多い岩片状コアを呈する。																	cg	Vg	Vg	Vg	Vg	3	61.72~62.36m: 不規則で微細な割れ目が卓越する。	CL'																	
		50								62.75m: 割れ目沿いの幅10mmが緑色を帯びる。																							IVg																		
		50								63.90~64.30m: 変質で軟化が著しい。割れ目はほぼ消滅する。																	cg	Vg	Vg	Vg	Vg	3	64.65~64.91m: 破砕帯(H-Gc) 破砕幅は19.8cmである。	D'																	
		50								64.65~64.72m: 粘土混じり礫状を呈し、にぶい黄褐色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は65°である。主せん断面と同方向の割れ目が多い。																							IVg																		
		50	64.72~64.79m: にぶい黄褐色の割れ目の密集部からなる。	cg	Vg	Vg	Vg	Vg	3	64.79~64.91m: 粘土混じり礫状を呈し、にぶい黄褐色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は65°である。下端部には鏡肌が見られる。	CL'																																								
		50	65.59~65.72m: 破砕部 破砕幅は11.7cmである。 粘土質礫状を呈し、褐灰色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は65°、下端境界の傾斜は62°である。							IVg																																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ピット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
															0	10	20	30	40												50																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
70			+	花崗斑岩	にぶい橙	Dg	Vg	cg				67.28~67.75m: 変質で軟化が著しい。灰白色を呈し粘土化している。	2 (0)											48	20.0		0.1	泥水4	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
																														46	67.75~78.71m: 70.08m以浅は軟質である。70.08m以深は中硬質部が主体であるが、割れ目が多い岩片状コアが主体となる。	3 (0)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
																																																												76	68.97~69.08m: 砂~細礫状を呈する。	4 (0)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
																																																																																										71.22~71.25m: 傾斜60°と傾斜54°の割れ目に囲まれて脆弱化している。	5 (0)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
																																																																																																																								73.56m: 傾斜65°の割れ目に幅4~10mmで暗褐色のシルト質砂を挟む。	6 (0)																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
																																																																																																																																																						74.16~74.34m: 傾斜30~50°の割れ目が密集し脆弱化している。	7 (0)																																																																																																																																																																																																																																																																												
																																																																																																																																																																																				75.05~75.29m: 傾斜20~40°でほぼ平行する低角度割れ目が多い。	8 (0)																																																																																																																																																																																																																																														
																																																																																																																																																																																																																		75.77~76.25m: 割れ目沿いに劣化しやや脆弱化している。	9 (0)																																																																																																																																																																																																																
																																																																																																																																																																																																																																																77.96~78.08m: 割れ目沿いに劣化している。砂状の挟在物が分布する。	10 (0)																																																																																																																																																																																		
																																																																																																																																																																																																																																																																														78.71~79.23m: 硬質部が主体で割れ目がやや多い短柱状コアを呈する。	11 (13)																																																																																																																																																				
																																																																																																																																																																																																																																																																																																												79.23~80.51m: 中硬質部が主体で割れ目が多い岩片状コアが主体となる。	12 (14)																																																																																																																						
																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										80.13~80.29m: 傾斜35~55°で同方向の割れ目が多い。	13 (24)																																																																																								
																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								80.51~81.96m: 硬質部が主体でやや割れ目が多い短柱状コアを呈する。	14 (26)																																																										
																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						81.30~81.96m: 微細な高角度のゆるぎ割れ目が多い。	15 (13)																												
83.00m以深は割れ目沿いに褐色化している。	17 (12)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
																														83.32~84.05m: 硬質だが割れ目がやや多い短柱状コアを呈する。	18 (13)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
																																																												84.05~86.14m: 84.77m以浅は軟質、84.77m以深は中硬質である。割れ目が多い短柱状~岩片状コアを呈する。	19 (0)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
																																																																																										86.14~88.26m: 硬質である。短柱状コアが主体となる。	20 (23)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
																																																																																																																								88.73~88.83m: 一部で砂~礫状を呈する。	21 (23)																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
																																																																																																																																																						88.26~89.50m: 硬質部と中硬質部が交互に分布する。割れ目がやや多い短柱状コアが主体となる。	22 (24)																																																																																																																																																																																																																																																																												
																																																																																																																																																																																				89.27~89.44m: 微細なゆるぎ割れ目が多い。密着度が低く細片化している。	23 (52)																																																																																																																																																																																																																																														
																																																																																																																																																																																																																		89.50~91.75m: 硬質で割れ目がやや多い短柱状コアを呈する。砂を薄く挟むことが多い。	24 (17)																																																																																																																																																																																																																
																																																																																																																																																																																																																																																91.75~93.13m: 中硬質で割れ目が多い。岩片状コアが主体となる。	25 (0)																																																																																																																																																																																		
																																																																																																																																																																																																																																																																														●93.13~93.22m: 破砕帯(H-7) 破砕幅は7.9cmである。 93.13~93.14m: 淡黄色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は1.2cmである。上端、下端境界の傾斜はともに30°である。下端部では風化が進む。 93.14~93.22m: 粘土混じり礫状を呈し、にぶい黄褐色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は50°である。	26 (0)																																																																																																																																																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図			原位置試験 (孔内水平試験)	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	室内試験	孔径 (mm) / 孔壁保護	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																
													試験																																																																																																												
													0	10	20																																																																																																										
100	花崗斑岩		+	浅黄橙					93.22~97.10m: 全体で岩片状コアとなる。 96.20~96.32m: 傾斜30°の割れ目多く、幅30~40mmで軟化している。	14 (114) 7 (7) 3 (3) 3 (3) 3 (3) 3 (3) 3 (3) 3 (3) 3 (3) 3 (3)	CL'		0	0	0	6/21	99	30.0	0	0	0	0	0	0																																																																																																	
																									6/22	62	15.0	0.1	泥水4	0	0	0																																																																																									
																									浅黄橙				97.10~98.03m: 割れ目が多く岩片状を呈する。 98.03~101.07m: 軟質で割れ目が多い岩片状コアが主体となる。割れ目沿いに劣化し、細砂状~砂状を呈することが多い。 99.27~99.53m: 密着した微細なゆるぎ割れ目が多い。 100.28~100.30m: 傾斜50~55°の割れ目中に幅20~40mmで砂を挟む。下盤側は一節で褐色化している。	11 (11) 3 (3) 3 (3) 3 (3) 3 (3) 3 (3) 3 (3) 3 (3) 3 (3) 3 (3)	CM'		0	0	0	6/23	120	38.0	150	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																									
																																																	6/23	73	15.0	0.1	泥水5	0	0	0																																																																	
																																																	浅黄橙				103.40~103.55m: 高角度主体の微細なゆるぎ割れ目が多く、全体に軟化している。 104.03~104.17m: 傾斜50~60°の割れ目が多い。 105.31~108.44m: 硬質である。短柱状~柱状コアを呈する。割れ目に沿って薄く砂状化することが多い。 106.87m: 傾斜30°の割れ目に幅3mmの砂、シルトを挟む。 107.47~108.34m: 硬質な柱状コアが主体となる。 ●108.44~108.71m: 破砕帯 (f-b-4 -6) 破砕幅は23.6cmである。粘土・砂混じり硬状を呈し、明黄褐色の固結した硬状部からなる。上端境界の傾斜は52°、下端境界の傾斜は62°である。108.66m以上は粘土化と砂状化が進む。 108.71~110.78m: 岩片状~短柱状コアが主体である。 110.78~115.29m: 硬質で割れ目が多い短柱状コアを呈する。 113.41~113.54m: 発達する割れ目沿いに劣化し全体が軟化している。	9 (9) 3 (3) 3 (3) 3 (3) 3 (3) 3 (3) 3 (3) 3 (3) 3 (3) 3 (3)	CH'		0	0	6/24	45	15.0	200	0.2	泥水4	0	0	0	0	0	0	0																																																		
																																																																								6/24	83	15.0	0.1	泥水5	0	0	0																																										
																																																																								浅黄橙				114.57~114.76m: 傾斜40°の割れ目を主体に割れ目が多い。全体が上下に比べやや軟化している。 115.29~119.65m: 硬質で割れ目の少ない柱状~長柱状コアが主体で、一節でやや割れ目が多い短柱状コアを呈する。 116.30m: 傾斜57°の割れ目に幅5mmで褐色の砂を挟む。 117.83m: 傾斜50°の割れ目沿いに硬質で緑泥石が晶出する。緑色を帯びる。	13 (13) 14 (14) 11 (11) 18 (18) 19 (19) 22 (22) 3 (3) 10 (10) 16 (16) 11 (11) 11 (11) 15 (15) 22 (22) 21 (21) 30 (30) 15 (15)	CM'		0	6/25	64	20.0	200	0.2	泥水4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																									
																																																																																																	6/25	50	20.0	0.2	泥水4	0	0	0																	
																																																																																																	浅黄橙				114.57~114.76m: 傾斜40°の割れ目を主体に割れ目が多い。全体が上下に比べやや軟化している。 115.29~119.65m: 硬質で割れ目の少ない柱状~長柱状コアが主体で、一節でやや割れ目が多い短柱状コアを呈する。 116.30m: 傾斜57°の割れ目に幅5mmで褐色の砂を挟む。 117.83m: 傾斜50°の割れ目沿いに硬質で緑泥石が晶出する。緑色を帯びる。	3 (3) 3 (3) 3 (3) 3 (3) 3 (3) 3 (3) 3 (3) 3 (3) 3 (3) 3 (3)	CH'		0	6/26	51	15.0	150	0.1	泥水5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				6/27	116	15.0	0.1	泥水5	0	0	0																																																																																																														
				6/27	41	15.0	0.1	泥水5	0	0	0																																																																																																														
				6/27	51	15.0	0.1	泥水5	0	0	0																																																																																																														
				6/27	42	15.0	0.1	泥水5	0	0	0																																																																																																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コアラ形状	割れ目の状態	風変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図			原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) /孔壁保護	コアチューブ /ピット	給圧 (kN・r MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
														N	値	深													
		120		にぶい黄橙	Bg	IIIg	cg	IIIg	IIg	119.65~120.10m: 中硬質で上下に比べやや軟化している。割れ目がやや多い短柱状コアを呈する。割れ目の一部は砂・シルトを挟む。	23 [86]	CH'		6/27	42														
		120		にぶい黄橙	Bg	IIIg	cg	IIIg	IIg	120.10~122.54m: 硬質で割れ目が少ない長柱状コアが主体となる。上下端部と中央部に割れ目がやや多い部分も含む。	32 [B2]	CM'		6/28	64														
		120		にぶい黄橙	Bg	IIIg	cg	IIIg	IIg	122.54~123.26m: 中硬質部が主体となる。上下に比べやや軟化する。	32 [59]	CM'		6/29	60														
		120		浅黄橙	Bg	IIIg	cg	IIIg	IIg	123.26~127.00m: 硬質であるが割れ目がやや多く短柱状が主体となる。一部で柱状~長柱状も含む。	28 [78]	CH'																	
		120		浅黄橙	Bg	IIIg	cg	IIIg	IIg	122.54~123.26m: 中硬質部が主体となる。上下に比べやや軟化する。	36 [34]	CH'																	
		120		浅黄橙	Bg	IIIg	cg	IIIg	IIg	123.00~123.26m: 割れ目に幅1~6mmのマンガンを挟み脆弱化している。	48 [118]	CM'																	
		120		浅黄橙	Bg	IIIg	cg	IIIg	IIg	125.37m: 微細なゆず割れ目が集中する。	26 [70]	CH'																	
		120		浅黄橙	Bg	IIIg	cg	IIIg	IIg	123.26~127.00m: 硬質であるが割れ目がやや多く短柱状が主体となる。一部で柱状~長柱状も含む。	18 [45]	CH'																	
		120		浅黄橙	Bg	IIIg	cg	IIIg	IIg	125.37m: 微細なゆず割れ目が集中する。	24 [34]	CM'																	
		120		浅黄橙	Bg	IIIg	cg	IIIg	IIg	127.00~130.42m: 中硬質部と硬質部が交互に分布する。割れ目が多い岩片状コアが主体となる。短柱状~柱状~長柱状コアも含む。	12 [122]	CM'																	
		120		浅黄橙	Bg	IIIg	cg	IIIg	IIg	128.90~129.15m: 割れ目扱いに一部礫状化している。	13 [113]	CL'																	
		130		にぶい黄橙	Bg	IIIg	cg	IIIg	IIg	130.42~136.64m: 硬質であるが割れ目がやや多い短柱状コアが主体となる。一部、柱状~長柱状コアも含む。	3 [41]	CH'		7/1	92														
		130		にぶい黄橙	Bg	IIIg	cg	IIIg	IIg	132.87m: 傾斜60°の割れ目に幅3mmのマンガンを挟む。	33 [44]	CH'																	
		130		にぶい黄橙	Bg	IIIg	cg	IIIg	IIg	133.26m: 割れ目間が礫状化している。褐色の粘土が付着する。	25 [45]	CH'																	
		130		にぶい黄橙	Bg	IIIg	cg	IIIg	IIg	133.26m: 割れ目間が礫状化している。褐色の粘土が付着する。	14 [45]	CH'																	
		130		にぶい黄橙	Bg	IIIg	cg	IIIg	IIg	136.64~139.72m: 硬質だが割れ目がやや多い短柱状コアが主体となる。一部で割れ目が少ない柱状~長柱状コアも含む。	22 [30]	CM'																	
		130		にぶい黄橙	Bg	IIIg	cg	IIIg	IIg	139.72~140.00m: 中硬質で割れ目が多い岩片状コアを呈する。	6 [10]	CH'																	
		130		にぶい黄橙	Bg	IIIg	cg	IIIg	IIg	139.72~140.00m: 中硬質で割れ目が多い岩片状コアを呈する。	40 [59]	CH'																	
		130		にぶい黄橙	Bg	IIIg	cg	IIIg	IIg	139.90m: 傾斜70°の割れ目に幅10mmで砂とマンガンを挟む。	9 [28]	CM'																	
		130		にぶい黄橙	Bg	IIIg	cg	IIIg	IIg	139.90m: 傾斜70°の割れ目に幅10mmで砂とマンガンを挟む。	9 [10]	CM'																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (最大コア長) R Q D L [%]	岩級区分	標準貫入 (N値~深度) 図		孔内水位 (m) 測定月日	試験				室内試験 (孔内水平距離)	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
													N	値		原位置試験	室	掘	掘										給	回	送	排	
20			花崗斑岩	灰白	Cg	γ	2			17.47~17.91m: 割れ目に幅1~2mm 灰白色の粘土を挟む。 17.70~18.00m: コア表面は粗く軟質である。 18.16~18.25m: 割れ目に幅1mmの鉱物脈を挟む。	CM'																						
				淡黄	Dg		δ	3																									
					Cg	bg		2			20.05~22.91m: 硬質である。割れ目が少ない柱状~短柱状コアを呈する。風化が激む。22.34~22.91mでは割れ目がやや多いが硬質である。	CH'																					
					IIIg						●22.91~23.23m: 破砕帯(D-4) 破砕幅は28.4cmである。22.91~22.92m: 灰オリーブ色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は0.3cmである。上端境界の傾斜は28°である。上端側に主せん断面と約20°で斜交する割れ目が分布する。22.92~22.98m: 淡黄色の割れ目の密集部からなる。22.98~23.07m: 粘土混じり礫状を呈し、淡黄色の固結した礫状部からなる。																						
					IVg						23.07~23.13m: 淡黄色の割れ目の密集部からなる。																						
					Bg						23.13~23.23m: 粘土混じり礫状を呈し、淡黄色の固結した礫状部からなる。B下端境界の傾斜は35°である。																						
					IIIg																												
					IVg																												
					Eg	VIg	dg		3																								
					Bg						●25.17~25.44m: 破砕帯(D-45) 破砕幅は4.2cmである。25.17~25.19m: 淡黄色の礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は1.5cmである。上端境界の傾斜は40°、下端境界の傾斜は25~40°である。																						
					IIIg						25.19~25.44m: 粘土混じり礫状を呈し、にぶい橙色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は36°である。																						
					IVg						●25.65~25.77m: 破砕帯(D-5) 破砕幅は8.0cmである。25.65~25.75m: 粘土混じり礫状を呈し、明褐色の割れ目の密集部からなる。上端境界の傾斜は30~60°である。																						
				Bg						25.75~25.76m: 灰黄褐色の礫質粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は0.1cmである。上端境界の傾斜は28°、下端境界の傾斜は40°である。																							
				IIIg						25.76~25.77m: 灰黄褐色の粘土状を呈し、固結した粘土状部からなる。傾斜は40°である。																							
				IVg						25.77~26.12m: 粘土化が進み軟質である。																							
				IIIg																													
				IVg						26.12~26.50m: 中硬質で割れ目が少ない長柱状コアを呈する。																							
				Bg						26.50~35.41m: 硬質である。																							
				IIIg																													
				IVg						32.39~32.94m: 割れ目に幅1~2mmで石英粒と灰白色のシルトを挟む。																							
				IIIg																													
				IVg						●35.41~35.55m: 破砕帯(f-J5-I-4) 破砕幅は4.1cmである。35.41~35.48m: 粘土混じり礫状を呈し、にぶい橙色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は45°である。																							
				Bg						35.48~35.49m: 明褐色の礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は0.3cmである。傾斜は32°である。																							
				IIIg						35.49~35.55m: 粘土混じり礫状を呈し、にぶい橙色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は32°、下端境界の傾斜は47°である。																							
				IVg						割れ目沿いに灰白色の粘土を不規則に挟む。																							
				Bg						35.55~36.05m: 風化と変質で軟化が著しい。幅1~5mmの灰白色~黄色の粘土を脈状に挟む。																							
				IIIg																													
				IVg						35.70~45.12m: 硬質である。41.45~41.60mでは一部軟質となる。短柱状~柱状コアが主体となる。																							
				IIIg																													
				IVg						41.45~41.60m: 風化と変質で淡黄色の砂状を呈する。																							
				Bg																													

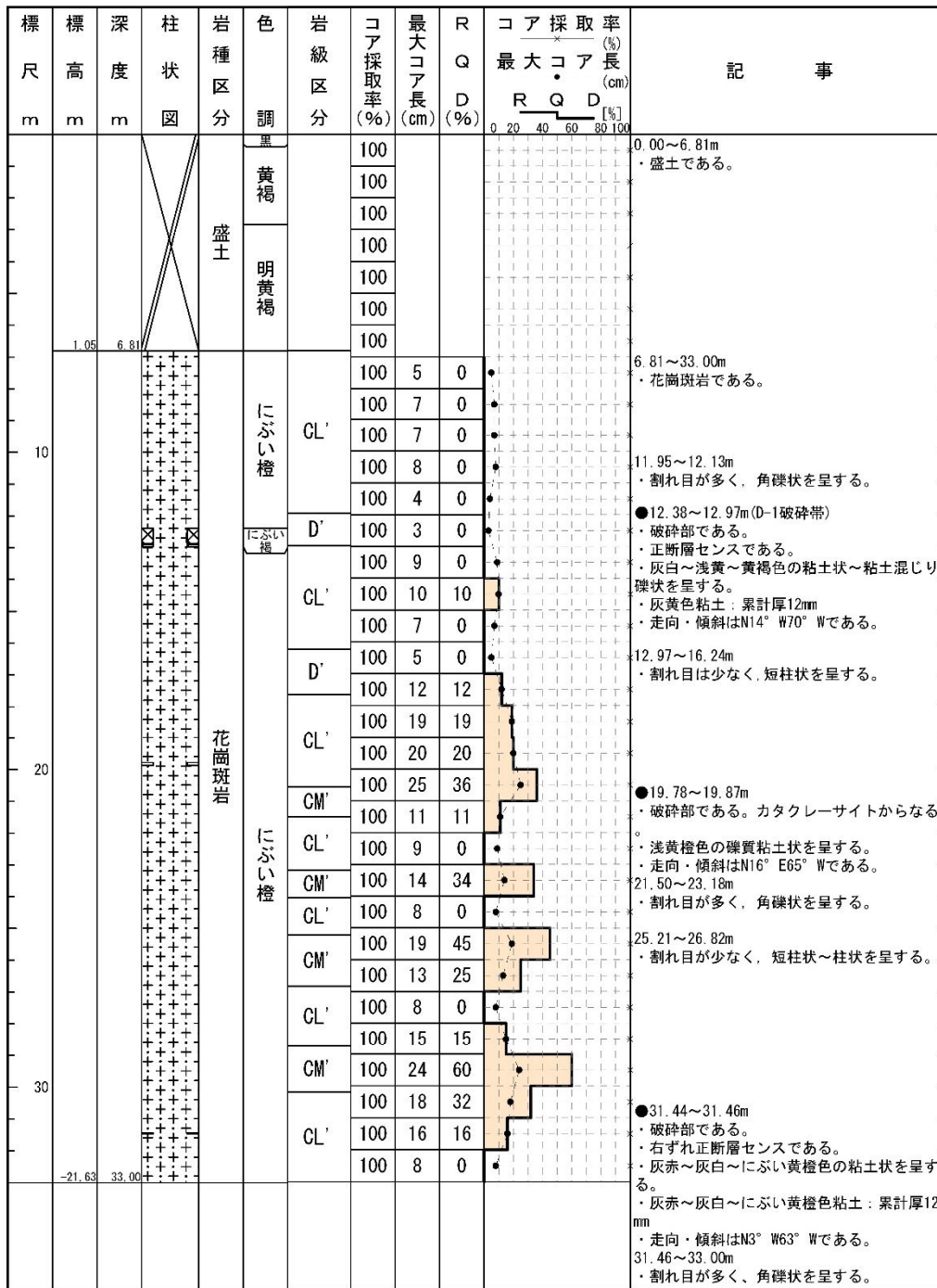
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
													(N 値 ~ 深度) 図																	
	8.70	46.00	+	花崗斑岩	灰白	Bg	IIIg	γ	●45.12~45.37m: 破碎帯 (D-46) 破碎幅は7.7cmである。 45.12~45.13m: 灰褐色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は1.0cmである。傾斜は35°である。 45.13~45.37m: 粘土混じり礫状を呈し、浅黄褐色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は40°である。 45.37~46.00m: 中硬質であるが、割れ目が多い岩片状コアを呈する。		CH'												78	86 / 泥水	ダブルコーン / ダイヤモンドビット	20.0	120	0.1	泥水?	0
						IVg	IIIg				CM'									6/30										
						IVg	IIIg				CL'										4/22									

6. 設置許可申請書案 ボーリング柱状図

余白

H24-D1-2

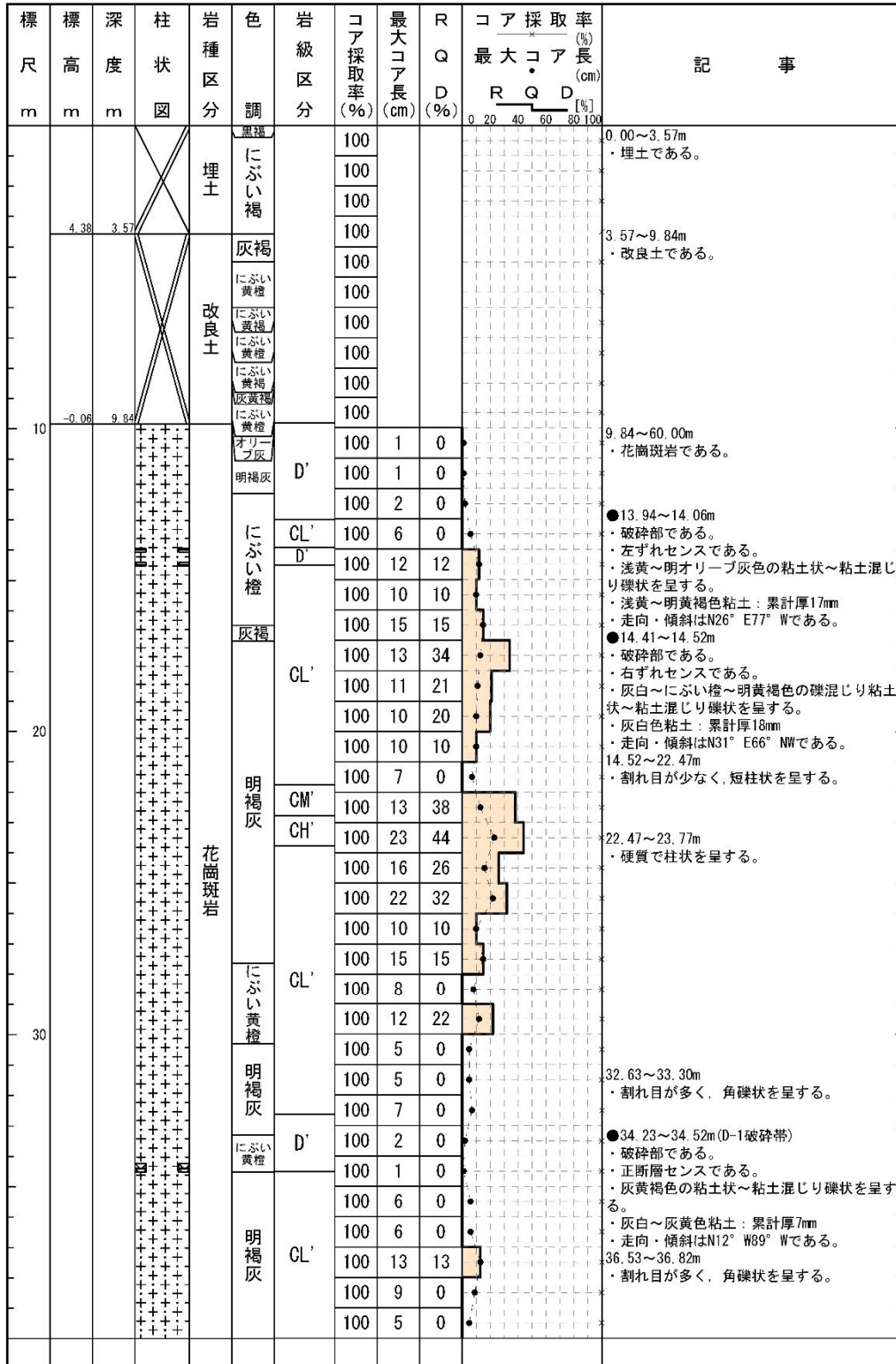
孔口標高	T.P.	6.95m	掘削長	33.00m
------	------	-------	-----	--------



第7.4.4.33図_D-1破碎帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図 (H24-D1-2)

H24-D1-3

孔口標高	T.P. 6.90m	掘削長	60.00m
------	------------	-----	--------



第7.4.4.34図(1)_D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図 (H24-D1-3)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記 事
50	-35.53	60.00		花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	7	0	●	<ul style="list-style-type: none"> ●52.13~52.28m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・灰褐～灰白～明褐灰色の粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・にふい燈～明赤灰色粘土：累計厚5mm ・走向・傾斜はN7° E70° Wである。
							100	13	13	●	
							100	8	0	●	
							100	12	12	●	
							100	11	11	●	
							100	10	10	●	
							100	8	0	●	
							100	8	0	●	
							100	5	0	●	
							100	7	0	●	
							100	6	0	●	
							100	5	0	●	
							100	4	0	●	
							100	6	0	●	
							100	5	0	●	
										<ul style="list-style-type: none"> ●56.88~57.24m ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・明褐灰色の粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・にふい赤褐色粘土：累計厚8mm ・走向・傾斜はN2° E89° Wである。 	
										<ul style="list-style-type: none"> 58.29~58.53m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 	

第7.4.4.34図(2)_D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図 (H24-D1-3)

H24-D1-4

孔 口 標 高	T.P.	6.95m	掘 削 長	70.00m
---------	------	-------	-------	--------

標 尺 m	標 高 m	深 度 m	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	岩 級 区 分	コ ア 採 取 率 (%)	最 大 コ ア 長 (cm)	R Q D (%)	コ ア 採 取 率 (%)			記 事			
										最 大 コ ア 長 (cm)	R	Q		D		
				埋 土	黒褐色 にぶい褐		100						0.00~2.94m ・埋土である。			
	4.87	2.94					100									
							100									
				改 良 土	明黄褐 にぶい黄橙		100						2.94~7.62m ・改良土である。			
							100									
	1.56	7.62					100									
							100									
							100									
							100									
10			+	花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	7	0				7.62~17.89m ・花崗斑岩である。			
								100	3	0						
								100	3	0						
								100	4	0						
								100	7	0						
								100	6	0						●10.91~10.93m(D-1破碎帯) ・破碎部である。 ・正断層センスである。 ・浅黄褐~灰白~浅黄色の礫混り粘土状を呈する。
								100	8	0						・浅黄褐~灰白~浅黄色粘土：累計厚18mm ・走向・傾斜はN13° W78° Wである。
								100	6	0						11.22~17.89m ・割れ目が少なく、短柱状を呈する。
		-5.70					17.89		100	7	0					
		-6.09					18.44		100	7	0					
20			+	花崗岩	にぶい橙	D'	100	6	0				17.89~18.44m ・黒雲母花崗岩である。			
								100	7	0						
								100	7	0						
								100	18	36						
								100	10	10						
								100	8	0						
								100	9	0						
								100	9	0						
								100	5	0						
								100	3	0						
30			+	花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	5	0				●27.75~28.43m ・破碎部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・明褐灰~灰白~明赤灰色の礫混り粘土状~粘土混り礫状を呈する。			
								100	9	0						
								100	12	12						・灰黄褐色粘土：累計厚5mm ・走向・傾斜はN6° E83° Wである。
								100	7	0						
								100	9	0						
								100	13	34						
								100	9	0						
								100	9	0						
								100	6	0						
								100	6	0						
			にぶい橙	明褐灰	CL'	100	6	0				34.57~34.63m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。				
						100	4	0								
						100	7	0								
													42.37~42.61m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。			

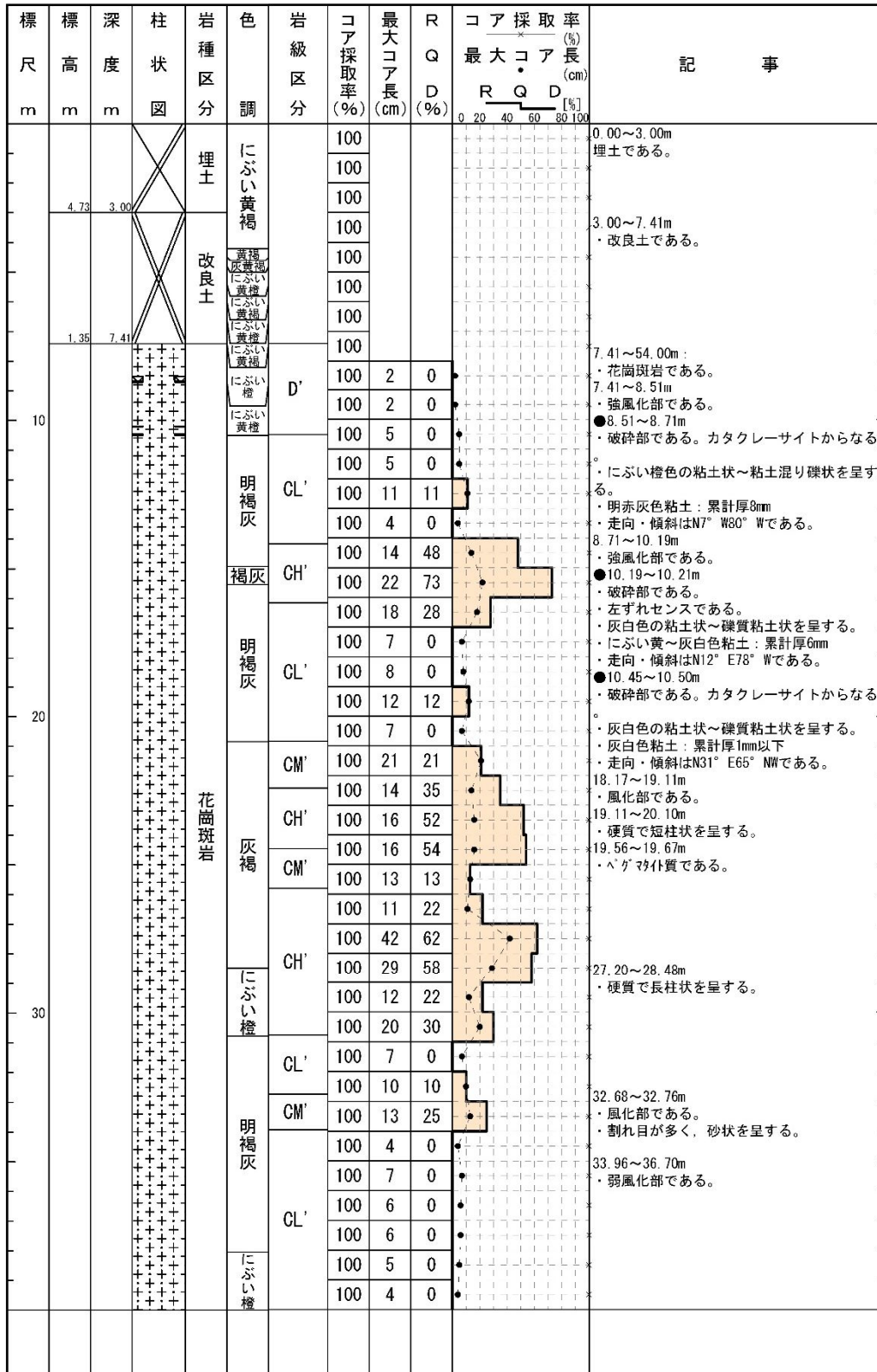
第7.4.4.35図(1)_D-1破碎帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-4)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記 事
50			+	花崗斑岩	にぶい 橙	CL'	100	10	10	●	<ul style="list-style-type: none"> 49.83~52.07m <ul style="list-style-type: none"> ・緑灰色に変色する。 52.07~52.97m <ul style="list-style-type: none"> ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 ●52.97~53.46m <ul style="list-style-type: none"> ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・灰白色の粘土状~粘土混じり礫状を呈する。 ・褐灰色粘土：累計厚5mm ・走向・傾斜はN41° E50° NWである。 56.57~59.47m <ul style="list-style-type: none"> ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 ●60.06~60.38m <ul style="list-style-type: none"> ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・灰褐~灰白色の粘土状~粘土混り礫状を呈する。 ・暗緑灰色粘土：累計厚8mm ・走向・傾斜はN18° E86° Wである。 60.38~61.39m <ul style="list-style-type: none"> ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 ●61.47~61.52m <ul style="list-style-type: none"> ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・灰白色の粘土状~礫質粘土状を呈する。 ・暗緑灰色粘土：累計厚2mm ・走向・傾斜はN27° W83° Wである。 ●63.67~63.90m <ul style="list-style-type: none"> ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・灰白~赤灰色の粘土状~礫混じり粘土状を呈する。 ・赤灰色粘土：累計厚10mm ・走向・傾斜はN19° W89° Wである。 66.65~67.05m <ul style="list-style-type: none"> ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
						CM'	100	7	0	●	
						CL'	100	7	0	●	
						CL'	100	12	12	■	
						CL'	100	6	0	●	
						CL'	100	5	0	●	
						GH'	100	12	33	■	
						GH'	100	18	34	■	
						CL'	100	9	0	●	
						CL'	100	8	0	●	
						CM'	100	9	0	●	
						CM'	100	14	35	■	
						D'	100	8	0	●	
						D'	100	2	0	●	
						CL'	100	4	0	●	
						CL'	100	4	0	●	
						CL'	100	12	12	■	
						CM'	100	6	0	●	
						CM'	100	9	0	●	
						CL'	100	7	0	●	
						CL'	100	4	0	●	
						CL'	100	4	0	●	
						D'	100	3	0	●	
D'	100	3	0	●							
CL'	100	9	0	●							
CL'	100	5	0	●							
CL'	100	4	0	●							
CL'	100	2	0	●							
CL'	100	3	0	●							
CL'	100	5	0	●							

第7.4.4.35図(2)_D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図 (H24-D1-4)

H24-D1-5

孔 口 標 高	T.P.	7.03m	掘 削 長	54.00m
---------	------	-------	-------	--------



第7.4.4.32図(1)_D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図 (H24-D1-5)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記 事	
												0 20 40 60 80 100
50	-34.34	54.00	+	花崗斑岩	にぶい 橙	明褐灰 橙	CL'	100	11	11		<p>41.08~41.49m ・硬質で短柱状を呈する。</p> <p>43.25~45.09m ・風化部である。 ・割れ目が多く、砂~角礫状を呈する。</p> <p>●47.47~47.89m(D-1破碎帯) ・破碎部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・灰黄~黄灰色の粘土状~粘土混じり礫状を呈する。 ・灰褐~褐灰色粘土：累計厚6mm ・走向・傾斜はN1° E88° Wである。</p> <p>52.75~54.00m ・硬質で短柱~柱状を呈する。</p>
								100	10	10		
								100	13	13		
					にぶい 橙	明褐灰 橙	D'	100	2	0		
								100	1	0		
					明褐灰 灰黄	明褐灰 灰黄	CL'	100	3	0		
								100	4	0		
								100	4	0		
					灰褐	明褐灰 灰黄	CM'	100	3	0		
								100	7	0		
								100	10	10		
								100	10	10		
					明褐灰 灰黄	明褐灰 灰黄	CH'	100	19	29		
100	12	24										

第7.4.4.32図(2)_D-1破碎帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図 (H24-D1-5)

H27-B-3

孔 口 標 高	T.P.	7.06m	掘 削 長	180.00m
---------	------	-------	-------	---------

標 尺 m	標 高 m	深 度 m	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	岩 級 区 分	コ ア 採 取 率 (%)	最 大 コ ア 長 (cm)	R Q D (%)	コ ア 採 取 率 (%) 最 大 コ ア 長 (cm)	記 事
		5.38		埋土	黒褐 にぶい 黄褐 灰黄褐		100				0.00~10.05m ・盛土である。 ・よく締まる粗砂~砂礫からなる。 ・0.00~1.70mはボーリング掘削前に実施した試掘の埋戻土である。
		1.70				にぶい黄褐	100				
						盛土	100				
						オリ ブ灰 区黄褐	100				
10	-2.99	10.05				明褐灰	100	4	0		10.05~119.14m ・花崗斑岩である。
						CL'	100	7	0		
						D'	100	9	0		
						CL'	100	3	0		12.96~14.62m ・所々に灰白色の粘土を斑点~脈状に含む。
						D'	100	6	0		
						CL'	100	10	10		15.33~15.43m ・軟質化著しい。
						CL'	100	7	0		
						にぶい 橙 明褐灰	100	8	0		18.05~18.47m ・珪質化している。
						明褐灰	100	5	0		
						にぶい 橙 明褐灰	100	9	0		
						明褐灰	100	14	24		20.04~20.93m ・硬質であるが、密着度の低い割れ目を含む。
						明褐灰	100	3	0		
						明褐灰	100	5	0		22.50~22.64m ・軟質化著しい。 ・上端に褐色の粘土脈、下端に褐色の砂を伴う。
						明褐灰	100	6	0		
						明褐灰	100	10	10		一部に灰白色の粘土を脈状に含む。
						明褐灰	100	18	18		●26.70~26.90m ・破碎部である。 ・左ずれセンスである。
						明褐灰	100	8	0		・淡黄色の粘土状~灰白色の礫質粘土状を呈する。
						明褐灰	100	5	0		・淡黄色粘土：1mm ・走向・傾斜はN18° E61° Wである ・傾斜は43°である。
						明褐灰	100	6	0		・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は54°である。
						明褐灰	100	26	36		●28.12~28.14m ・破碎部である。カタクレーサイトからなる。
						明褐灰	100	17	40		
						明褐灰	100	10	10		・浅黄色の粘土状~にぶい黄褐色の粘土混じり礫状~粘土質礫状を呈する。
						明褐灰	100	5	0		・浅黄色粘土：3mm ・N15° E64° W ・傾斜は43°である。
						明褐灰	100	9	0		・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は45°~55°である。
						明褐灰	100	8	0		●29.10~29.12m ・破碎部である。 ・左ずれセンスである。
						明褐灰	100	19	43		・灰白~灰黄褐色の粘土状~灰白色の礫質粘土状を呈する。
						明褐灰	100	16	16		・灰白~灰黄褐色粘土：累計厚10mm ・走向・傾斜はN31° E51° Wである。
						明褐灰	100	10	10		・傾斜は49°である。
						明褐灰	100	10	10		・上盤境界の傾斜は49°、下盤境界の傾斜は45°~50°である。
						明褐灰	100	10	10		30.56~32.21m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
						明褐灰	100	10	10		34.20~35.94m ・硬質だが、密着度の低い割れ目が多い。
						明褐灰	100	10	10		35.94~37.30m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
						明褐灰	100	10	10		37.69~37.81m ・割れ目沿いに、砂状化している。 ・白色の粘土脈を伴う。

第7.4.4.29図(1)_D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア 長 (cm) R Q D [%]	記 事
50			+	花崗斑岩	反褐	CL'	100	11	11		<ul style="list-style-type: none"> 40.79~41.83m <ul style="list-style-type: none"> ・硬質であるが、割れ目が多い。 ●42.85~42.91m <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・右ずれセンスである。 ・灰白色の砂・礫混じり粘土状~明褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰白色粘土：累計厚25mm ・走向・傾斜はNS71° Wである。 ・傾斜は45°である。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は66°である。 46.14~48.61m <ul style="list-style-type: none"> ・硬質であるが、割れ目が多い。 ・上部は長石の多くが白濁化する。 ・一部で割れ目沿いに、砂状~細片化している。 53.10~55.82m <ul style="list-style-type: none"> ・割れ目が多く、一部割れ目沿いに砂状化し白色粘土を伴う。 ●56.69~56.72m <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。カタクレサイトからなる。 ・淡黄色の粘土状~浅黄~黄灰色の砂・粘土混じり礫状を呈する。 ・淡黄色粘土：累計厚1mm ・走向・傾斜はN2° W36° Wである。 ・傾斜は31°である。 ・上盤境界の傾斜は30°、下盤境界の傾斜は31°である。 ●58.89~58.98m <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・左ずれセンスである。 ・灰白色の礫混じり粘土状~にぶい黄橙色の礫質粘土状~褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰白色礫混じり粘土：累計厚15mm ・走向・傾斜はN11° W54° Wである。 ・傾斜は25°である。 ・上盤境界の傾斜は20°、下盤境界の傾斜は25°である。
					明褐灰	CM'	100	9	0		
					CL'	100	8	0			
					CL'	100	13	33			
					CM'	100	11	11			
					CL'	100	12	12			
					CM'	100	11	21			
					CL'	100	11	11			
					CM'	100	6	0			
					CL'	100	7	0			
					CL'	100	4	0			
					CL'	100	4	0			
					CL'	100	6	0			
					CL'	100	6	0			
					CL'	100	5	0			
					CL'	100	3	0			
					CL'	100	2	0			
					CL'	100	3	0			
					CL'	100	2	0			
					CL'	100	5	0			
CL'	100	5	0								
CL'	100	3	0								
CL'	100	5	0								
CL'	100	7	0								
CL'	100	4	0								
CL'	100	7	0								
CL'	100	9	0								
CL'	100	6	0								
CL'	100	2	0								
CL'	100	4	0								
CL'	100	2	0								
CL'	100	2	0								
CL'	100	3	0								
CL'	100	5	0								
CL'	100	7	0								
CL'	100	2	0								
CL'	100	8	0								
CL'	100	4	0								
CL'	100	4	0								
60			+	花崗斑岩	明褐灰	D'	100	2	0		<ul style="list-style-type: none"> 60.00~62.23m <ul style="list-style-type: none"> ・硬質であるが、密着度の低い割れ目が多い。 ・一部割れ目沿いに、砂状化している。 62.82~62.93m <ul style="list-style-type: none"> ・砂礫状を呈し、白色粘土脈を伴う。 64.52~66.39m <ul style="list-style-type: none"> ・硬質であるが、割れ目が多い。 ・一部割れ目沿いに、薄く砂状化している。 68.06~68.93m <ul style="list-style-type: none"> ・砂礫状を呈する。 70.10~71.72m <ul style="list-style-type: none"> ・著しく軟質化している。 ・粘土~砂状化が進み、白色粘土脈を伴う。 72.65~73.38m <ul style="list-style-type: none"> ・著しく軟質化している。 ・一部、細砂礫状を呈する。 ●76.59~76.89m <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・左ずれセンスである。 ・明黄色の粘土状~灰白~にぶい橙色の礫質粘土~粘土混じり礫状を呈する。 ・明黄色粘土：累計厚1mm ・走向・傾斜はN41° E30° Wである。 ・傾斜は47°である。 ・上盤境界の傾斜は47°、下盤境界の傾斜は37°である。 79.15~85.03m <ul style="list-style-type: none"> ・粘土化が進み、著しく軟質化している。 ・原岩組織と割れ目の一部は残っている。
					明褐灰	D'	100	2	0		
					明褐灰	CL'	100	3	0		
					明褐灰	D'	100	5	0		
					明褐灰	CL'	100	5	0		
					明褐灰	D'	100	3	0		
					明褐灰	D'	100	2	0		
					明褐灰	CL'	100	5	0		
					明褐灰	D'	100	7	0		
					明褐灰	D'	100	2	0		
70			+	花崗斑岩	明褐灰	D'	100	2	0		<ul style="list-style-type: none"> 76.59~76.89m <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・左ずれセンスである。 ・明黄色の粘土状~灰白~にぶい橙色の礫質粘土~粘土混じり礫状を呈する。 ・明黄色粘土：累計厚1mm ・走向・傾斜はN41° E30° Wである。 ・傾斜は47°である。 ・上盤境界の傾斜は47°、下盤境界の傾斜は37°である。 79.15~85.03m <ul style="list-style-type: none"> ・粘土化が進み、著しく軟質化している。 ・原岩組織と割れ目の一部は残っている。
					明褐灰	D'	100	2	0		
					明褐灰	CL'	100	3	0		
					明褐灰	D'	100	5	0		
					明褐灰	CL'	100	5	0		
					明褐灰	D'	100	3	0		
					明褐灰	D'	100	2	0		
					明褐灰	CL'	100	5	0		
					明褐灰	D'	100	7	0		
					明褐灰	D'	100	2	0		

第7.4.4.29図(2)_D-1破碎帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図 (H27-B-3)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [m]	記 事						
												0 20 40 60 80 100					
90			+	花崗斑岩	明褐灰	D'	100	5	0	●	84.54~84.71m ・砂状化が進み、軟質粘土を伴う。						
					明黄褐		100	4	0								
					明褐灰		100	3	0								
					明黄褐 灰褐		100	3	0								
					にぶい 褐	CL'	100	3	0			85.61~93.25m ・著しく軟質化している。					
					褐灰	100	2	0									
					にぶい 黄橙	D'	100	2	0			87.18~91.35m ・砂礫状を呈する。					
					明褐灰		100	3	0								
					明褐灰		100	6	0								
					にぶい 橙	CL'	100	3	0			●91.35~91.54m ・破碎部である。カタクレーサイトからなる。 ・灰白色の粘土状~灰白~にぶい黄橙~浅黄 褐色の礫質粘土状~にぶい褐色の粘土混じり 礫状を呈している。 ・灰白色粘土：累計厚10mm ・走向・傾斜はN64° W20° Sである。 ・傾斜は25°である。 ・上盤境界の傾斜は36°、下盤境界の傾斜は 20°である。					
					灰褐		100	4	0								
					明褐灰	CL'	100	2	0			91.54~92.00m ・石英以外は砂状化している。					
					にぶい 橙	100	6	0									
					灰褐	D'	100	7	0			93.66~93.86m ・粘土化及び砂状化が著しい。					
					褐灰		100	2	0								
					100			+	花崗斑岩			にぶい 橙	CL'	100	5	0	●99.50~99.68m ・破碎部である。カタクレーサイトからなる。 ・灰白色の砂混じり粘土状~明黄褐~褐灰色 の粘土・砂混じり礫状を呈する。 ・灰白色砂混じり粘土：累計厚10mm ・走向・傾斜はN15° W89° Eである。 ・傾斜は38°である。 ・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は 37°である。
												灰褐	100	8	0		
												褐灰	CM'	100	12	12	
												褐灰	CH'	100	8	0	
												褐灰	CH'	100	12	23	
にぶい 橙	CM'	100	18	31													
褐灰		100	10	10													
明褐灰	100	7	0	102.00~104.28m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱 状を呈する。													
明褐灰	100	10	10														
110			+	花崗斑岩						褐灰	104.28~105.88m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。	100	10	10	105.88~119.00m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱 状を呈する。 108.71~112.27m ・割れ目が少なく、柱状を呈する。 ・割れ目には、挟在物は見られない。 112.27~113.27m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱 状を呈する。 ・一部割れ目に、砂~シルト状緑泥石が見ら れる。 113.27~117.32m ・短柱~柱状を呈する。 ・一部割れ目沿いに、砂~片状化している。 117.32~117.39m ・割れ目沿いに、軟質化している。 117.39~119.00m ・短柱~柱状を呈する。 ・下部に割れ目が多いが、挟在物は見られな い。		
					100	10	10										
					100	15	25										
					100	15	25										
					100	12	12										
					100	10	20										
					100	20	72										
					100	22	40										
					100	12	34										
					100	25	47										
100	10	10															
100	10	10															
100	21	36															
100	3	0															
			+	花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	3	0	119.14~119.30m ・暗緑灰色の礫状を呈する。 ●119.11~119.25m (D-1破碎帯) ・破碎部である。 ・正断層センスである。 ・緑灰色の粘土状~にぶい橙~暗緑灰色の粘 土混じり礫状を呈する。 ・緑灰色粘土：累計厚10mm ・走向・傾斜はN20° E87° Wである。 ・傾斜は60°である50。 ・上盤境界の傾斜は°、下盤境界の傾斜は43° である。							
					明褐灰	CL'	100	3	0								

第7.4.4.29図(3)_D-1破碎帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図 (H27-B-3)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	R Q D [%]	記 事						
													0 20 40 60 80 100					
130			+			褐灰	CH'	100	31	64	●	119.30~180.00m ・花崗斑岩である。 120.10~129.84m ・硬質で割れ目が少なく、主として短柱~柱状を呈する。 ・割れ目に挟在物は見られず、割れ目面もほぼ新鮮である。						
							CH'	100	23	74								
							CH'	100	21	76								
							CH'	100	26	88								
							CH'	100	20	47								
							CH'	100	19	79								
							CM'	100	13	35								
							CM'	100	12	23								
							CH'	100	20	34								
							CM'	100	10	20								
						140			+	花崗斑岩		灰褐	CL'	100	14	24	●	●129.84~129.91m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・緑灰色の礫混じり粘土状~灰白色の粘土質礫状を呈する。 ・緑灰色礫混じり粘土：累計厚5mm ・走向・傾斜はN25° E24° Eである。 ・傾斜は70°である。 ・上盤境界の傾斜は70°、下盤境界の傾斜は60°~70°である。 132.00~180.00m ・硬質で割れ目が少なく、主として短柱~長柱状を呈する。 ・割れ目面はほぼ新鮮で、挟在物はわずかである。 132.41~134.33m ・硬質であるが、密着度の低い割れ目が多い。 134.33~141.97m ・割れ目が少なく、柱状を呈する。 ・一部割れ目沿いに、片状化している。 ・緑泥石脈、石英脈が点在する。 141.97~147.08m ・硬質であるが、割れ目がやや多く、主として短柱状を呈する。 ・一部割れ目沿いに、細片化している。
													CM'	100	21	73		
													CH'	100	25	25		
													CM'	100	5	0		
													CH'	100	11	11		
													CH'	100	16	28		
													CH'	100	29	58		
													CH'	100	15	71		
													CH'	100	27	72		
													CH'	100	52	52		
150			+			灰褐	CH'	100	13	34	●	147.08~152.23m ・柱状~一部短柱状を呈する。 ・一部の割れ目で細片化、緑泥石化しているが、全体に挟在物はわずかである。 152.23~166.65m ・柱状~長柱状を呈する。 ・一部で緑泥石化が進むが、硬質である。 ・一部割れ目で片状化しているが、挟在物は見られない。 156.50~156.90m ・割れ目の交差部で、片状化している。 ・硬質で、挟在物は見られない。						
							CH'	100	16	48								
							CH'	100	14	14								
							CH'	100	10	30								
							CM'	100	8	0								
							CH'	100	11	32								
							CH'	100	13	13								
							CH'	100	25	37								
							CH'	100	22	62								
							CH'	100	11	32								
160			+			にぶい褐	CM'	100	15	39	●							
							CH'	100	15	25								
							B'	100	43	90								
							B'	100	36	95								
							CH'	100	21	43								
							B'	100	30	78								
170			+			にぶい褐	CH'	100	16	28	●							
							CH'	100	26	53								
							B'	100	32	61								
							B'	100	32	93								

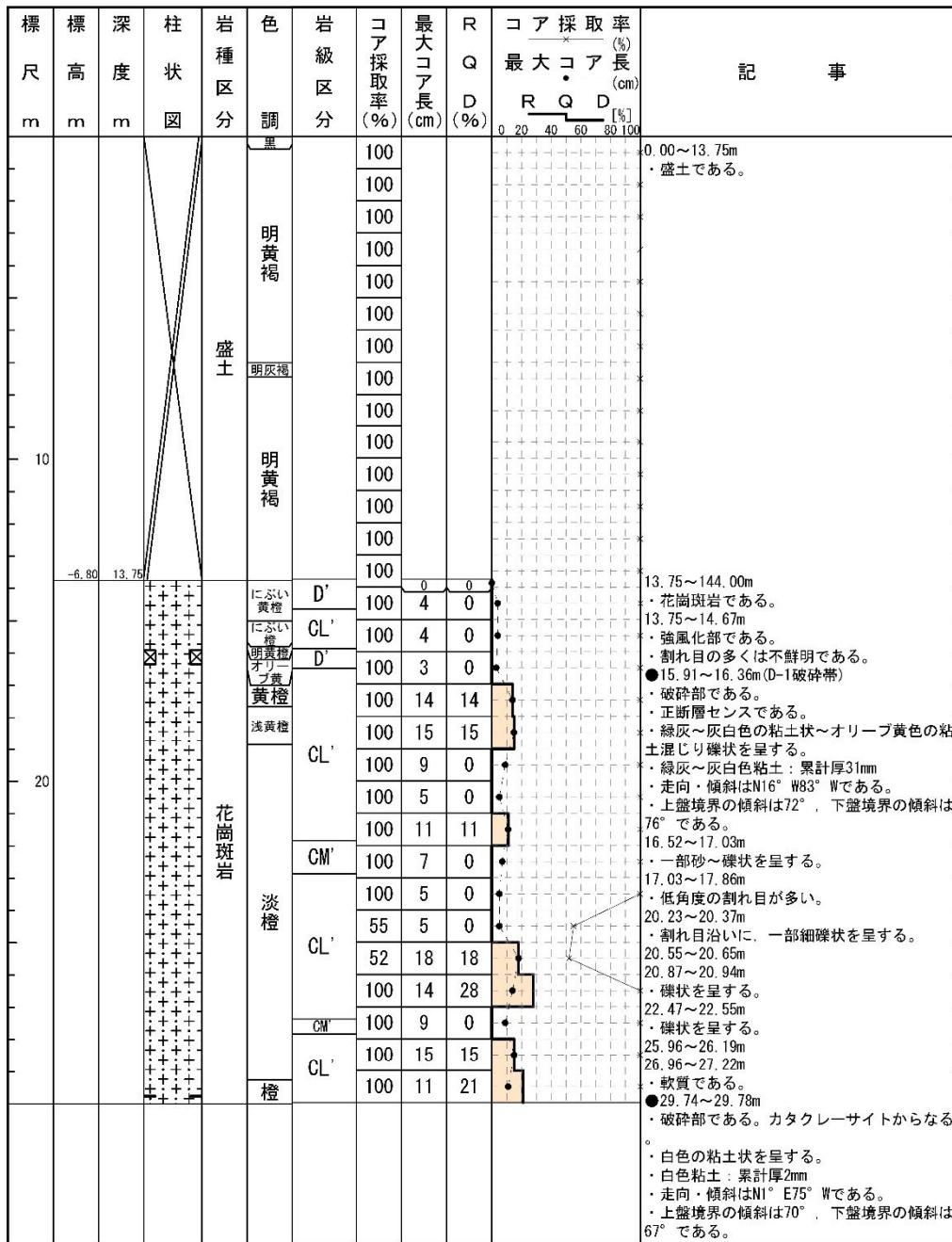
第7.4.4.29図(4)_D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図 (H27-B-3)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記事
				花崗斑岩	暗緑灰 にぶい 褐	B'	100	22	45		<p>161.70~161.90m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 割れ目の交差部で、片状化している。 ・ 硬質で、挟在物は見られない。 <p>166.65~169.66m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 短柱~柱状を呈する。 ・ 一部で割れ目が多いが、挟在物は見られない。 ・ 全体に緑泥石化が進む。斑点状に晶出しており、点在する箇所も見られる。 <p>169.66~180.00m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 柱状~長柱状を呈する。 ・ 一部で緑泥石化が進むが、硬質である。 ・ 一部割れ目で片状化しているが、挟在物は見られない。 <p>176.50~176.78m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 割れ目の交差部で、岩片状~短柱状を呈する。 ・ 一部の割れ目沿いに風化しているが、砂状~粘土状部は見られない。
					緑灰	CH'	100	13	26		
					にぶい 褐	B'	100	35	68		
					灰褐		100	37	73		
					にぶい 褐	B'	100	35	100		
					灰白		100	46	98		
					にぶい 褐	CH'	100	63	77		
					灰褐 CM	CH'	100	21	36		
					暗緑灰	CH'	100	25	69		
					灰 暗緑灰	B'	100	18	43		
					灰褐		100	77	91		
					褐灰	B'	100	49	87		
					灰褐		100	37	62		
					にぶい 褐	CH'	100	28	58		
					褐灰	B'	100	62	100		
				CH'	100		28	43			
				灰白 CM	CH'	100	14	37			
				褐灰	B'	100	49	79			
				CH'		100	33	71			
					CH'	100	15	43			
		-172.94	180.00								

第7.4.4.29図(5)_D-1破碎帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図 (H27-B-3)

H27-B-4

孔口標高	T.P. 6.95m	掘削長	140.00m
------	------------	-----	---------



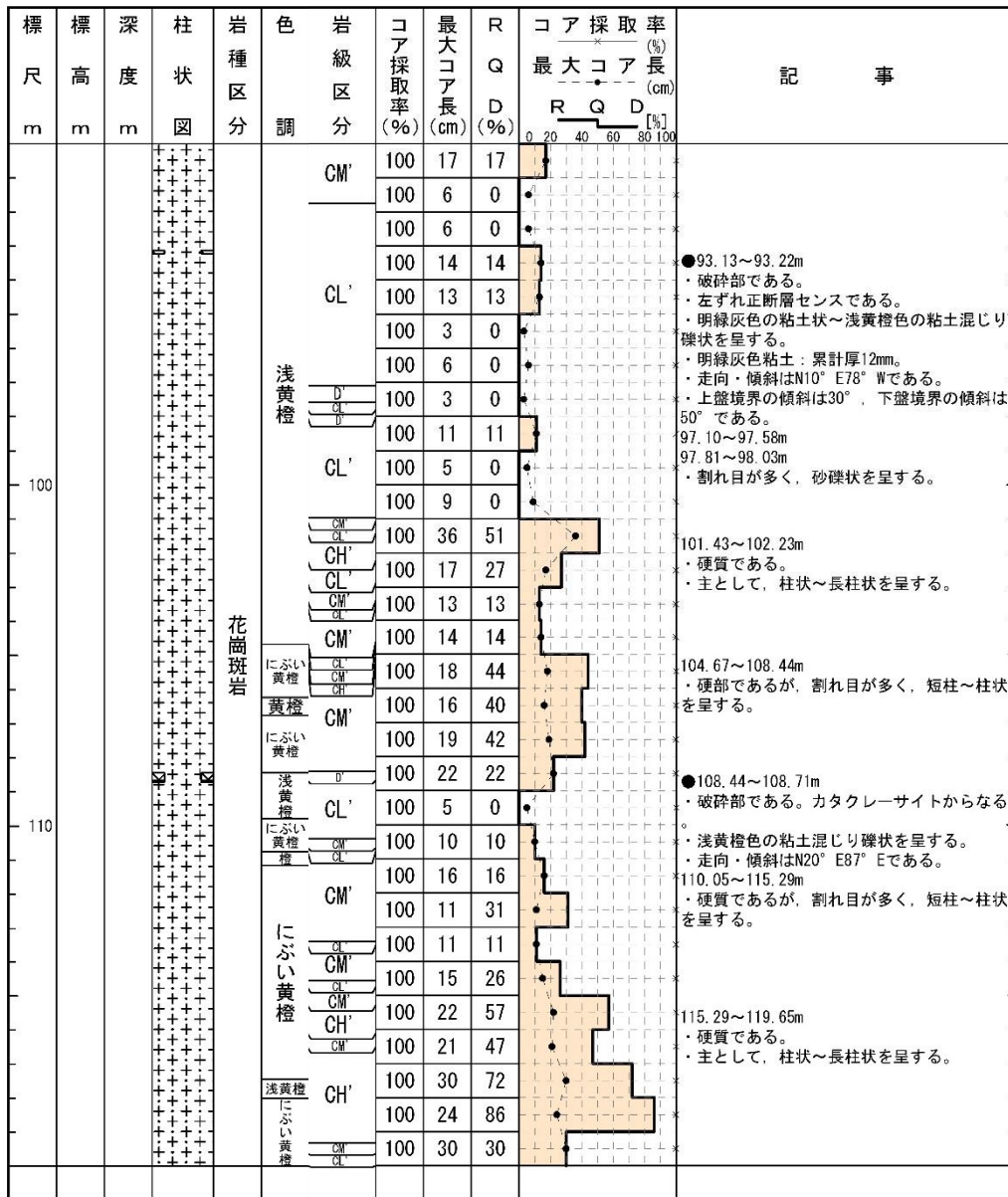
第7.4.4.30図(1)_D-1破碎帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記 事	
												0 20 40 60 80 100
40			+	花崗斑岩		にぶい橙	100	13	25		<p>31.77~31.93m ・低角度で、ほぼ並行する微細な割れ目が多い。</p> <p>32.36~32.73m ・傾斜30°程度の、ほぼ並行する割れ目が多い。</p> <p>33.00~33.62m ・傾斜30°~50°の割れ目が多い。</p> <p>35.60~35.78m ・低角度の、ほぼ並行する割れ目が多い。</p> <p>36.98~37.10m ・割れ目沿いに、一部白色鉱物脈を挟む。</p> <p>37.36~39.84m ・高角度の割れ目に沿って、幅12mm程度砂~細粒状を呈する。</p> <p>41.00~41.20m ・硬質である。</p> <p>41.00~41.20m ・主として、短柱~柱状を呈する。</p> <p>41.00~41.20m ・低角度と高角度の割れ目が交差し、網目状を呈する。</p>	
							CL'	100	17			27
							灰白	100	12			22
								100	14			14
							にぶい橙	100	10			10
								CH'	100			28
							浅黄	100	22			56
								CH'	100			15
							CL'	100	8			0
								CL'	100			6
							D	100	4			0
								100	3			0
							CL'	100	21			21
								100	8			0
							にぶい橙	100	10			10
								CM'	100			9
							CL'	100	5			0
								100	11			21
							D	100	6			0
								100	11			11
CL'	100	6	0									
	100	4	0									
明黄橙	100	9	0									
	100	7	0									
にぶい橙	100	10	10									
	CL'	100	6	0								
CM'	100	19	32									
	100	32	44									

第7.4.4.30図(2)_D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図 (H27-B-4)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記 事						
												0 20 40 60 80 100					
70				花崗斑岩	にぶい橙	CL'	100	4	0	●	60.07~60.45m 60.82~61.72m ・微細な割れ目が多い。						
							100	3	0	●							
							100	3	0	●	63.90~64.30m ・変質している。 ・軟質化しており、割れ目は不鮮明である。						
							100	6	0	●							
							100	4	0	●	●64.65~64.91m ・破碎部である。 ・正断層センスである。 ・褐灰色の粘土状~にぶい橙色の粘土混じり礫状を呈する。 ・褐灰色粘土：累計厚3mm。 ・走向・傾斜はN4°E87°Eである。 ・上盤境界の傾斜は65°、下盤境界の傾斜は65°である。						
							100	3	0	●							
							100	3	0	●	●65.59~65.72m ・破碎部である。カタクレーサイトからなる。						
							100	2	0	●							
							100	3	0	●	・灰白色の粘土状~褐灰色の砂~礫状を呈する。 ・灰白色粘土：累計厚3mm。 ・走向・傾斜はNS78°Wである。 ・上盤境界の傾斜は65°、下盤境界の傾斜は62°である。						
							100	9	0	●							
							100	5	0	●	67.28~67.75m ・変質している。 ・灰白色を呈し、粘土化している。						
							100	5	0	●							
							100	8	0	●	68.97~69.08m ・砂~細礫状を呈する。						
							100	7	0	●							
							100	6	0	●	74.19~74.34m ・傾斜30°~50°の割れ目が多い。						
							100	8	0	●							
							100	6	0	●	75.05~75.29m ・傾斜20°~40°の、ほぼ並行する低角度の割れ目が多い。						
							100	6	0	●							
							80				淡橙	GL'	100	13	13	●	80.13~80.29m ・傾斜35°~55°の、同方向の割れ目が多い
													100	13	13	●	
100	14	14	●	83.32~84.05m ・硬質であるが、割れ目が多く、短柱~柱状を呈する。													
100	13	24	●														
100	13	24	●	84.09~84.77m ・割れ目が多く、軟質化している。													
100	15	26	●														
100	13	13	●	86.14~88.26m ・硬質である。 ・主として、柱状~長柱状を呈する。													
100	12	34	●														
100	8	0	●	89.27~89.44m ・微細な割れ目が多い。													
100	9	0	●														
100	13	23	●	浅黄橙													
100	23	62	●														
100	13	24	●														
100	13	24	●														
100	8	20	●														

第7.4.4.30図(3)_D-1破碎帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図 (H27-B-4)



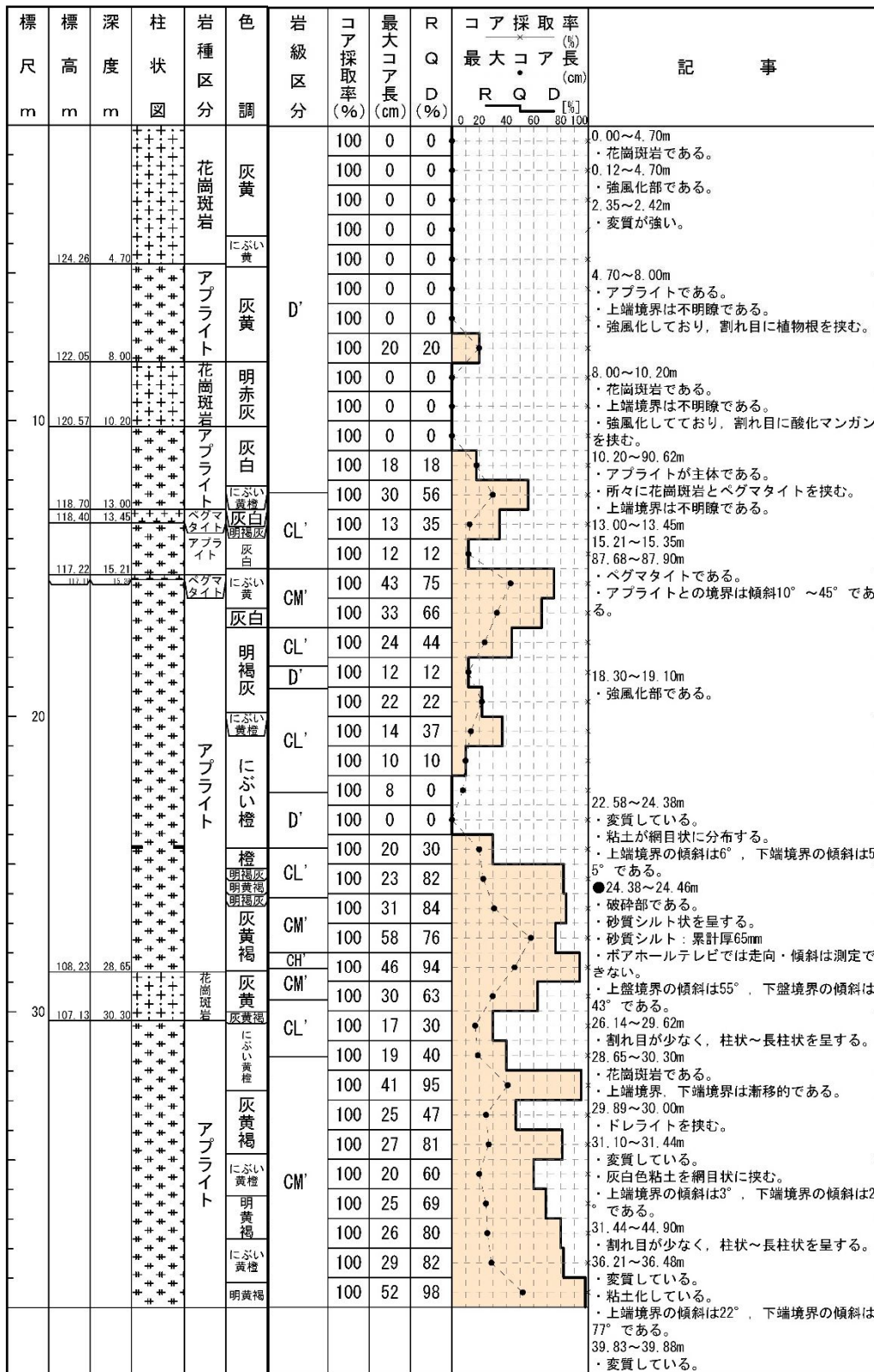
第7.4.4.30図(4)_D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図 (H27-B-4)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記事		
												0 20 40 60 80 100	
130	-133.05	140.00	+	花崗斑岩	にぶい黄橙	CH'	100	32	55		120.40~122.46m ・硬質である。 ・主として、柱状~長柱状を呈する。		
						CM'	100	28	83				
						にぶい黄橙	CH'	100	36		36	123.26~127.00m ・硬質であるが、割れ目が多く、主として短柱~柱状を呈する。一部、長柱状を呈する。	
						浅黄橙	CM'	100	8		0		
						にぶい黄橙	CH'	100	26		71	128.90~129.15m ・割れ目沿いに、一部碟状を呈する。	
						浅黄橙	CM'	100	20		47		
						にぶい黄橙	CH'	100	14		24	130.42~139.72m ・硬質であるが、割れ目が多く、短柱~柱状を呈する。一部、長柱状を呈する。	
							CM'	100	12		12		
							CH'	100	8		0		
							CL'	100	32		43		
							明黄橙	CH'	100		9		0
							にぶい黄橙	CM'	100		33		46
							CH'	100	26		45		
							CH'	100	26		57		
							橙成白	CH'	100		14		45
							CH'	100	22		38		
						にぶい黄橙	CH'	100	9		0	138.01~138.16m ・微細な割れ目が多い。	
							CH'	100	24		54		
							CH'	100	16		28		
							CH'	100	9		0		
灰白 にぶい黄橙	CH'	100	9	0	140.00~141.42m ・割れ目沿いに、細碟状を呈する箇所が多い。								
	CH'												
	CH'												
	CH'												

第7.4.4.30図(5)_D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図 (H27-B-4)

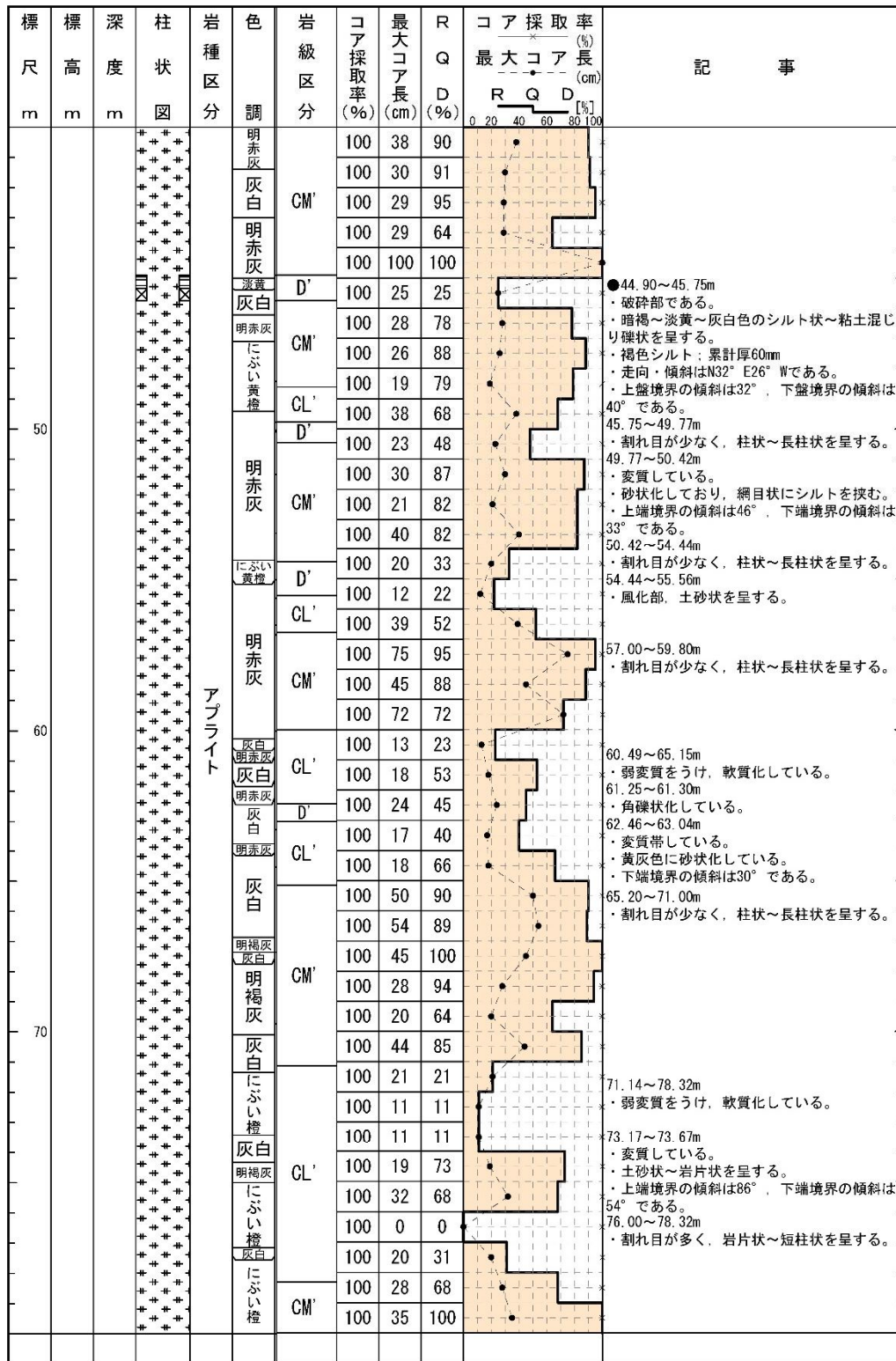
H19-No. 2

孔 口 標 高	T.P. 127.40m	掘 削 長	220.00m
---------	--------------	-------	---------



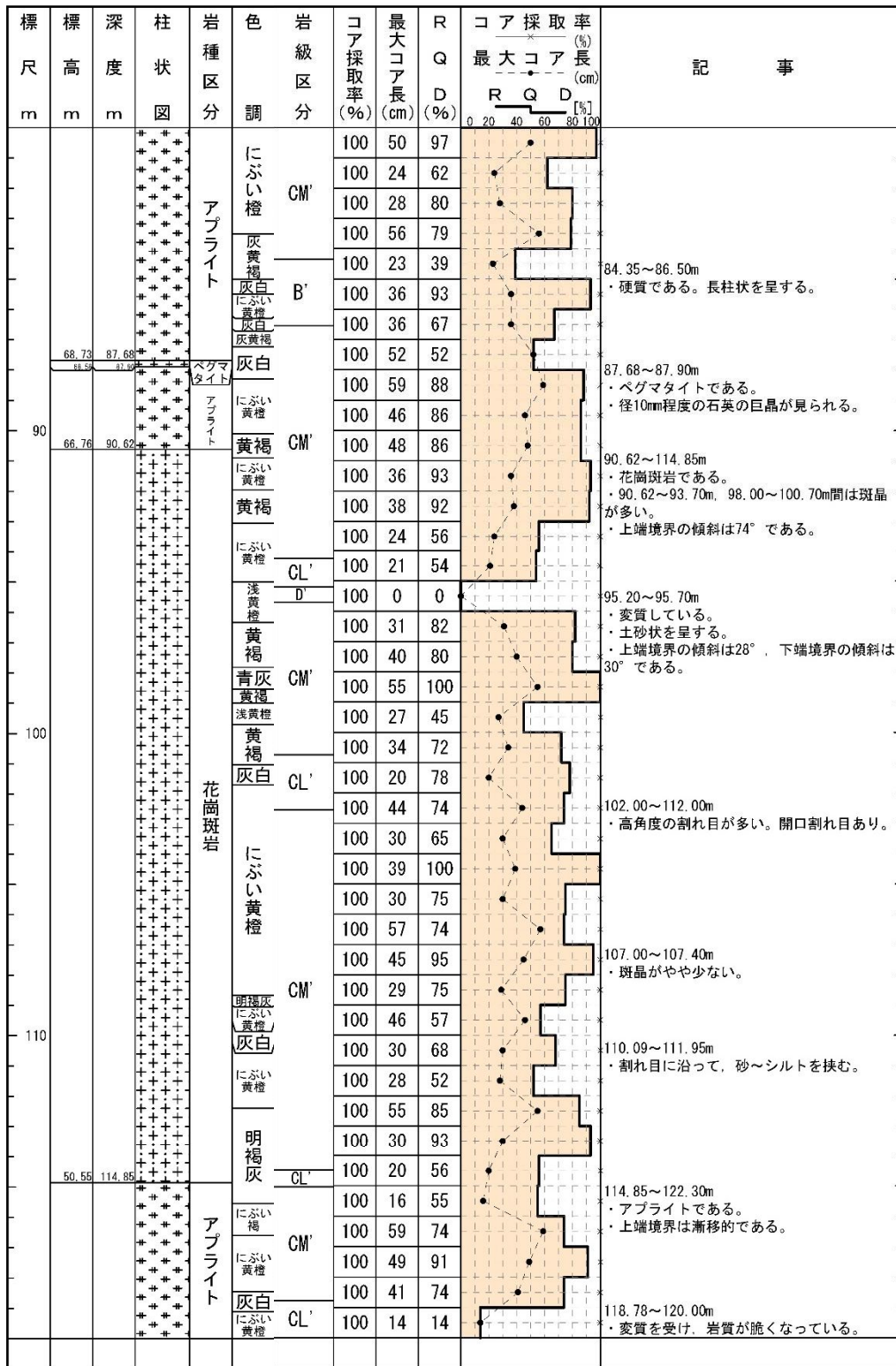
第7.4.4.25図 (1)

D-1破碎帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方)
コア柱状図 (H19-No. 2)



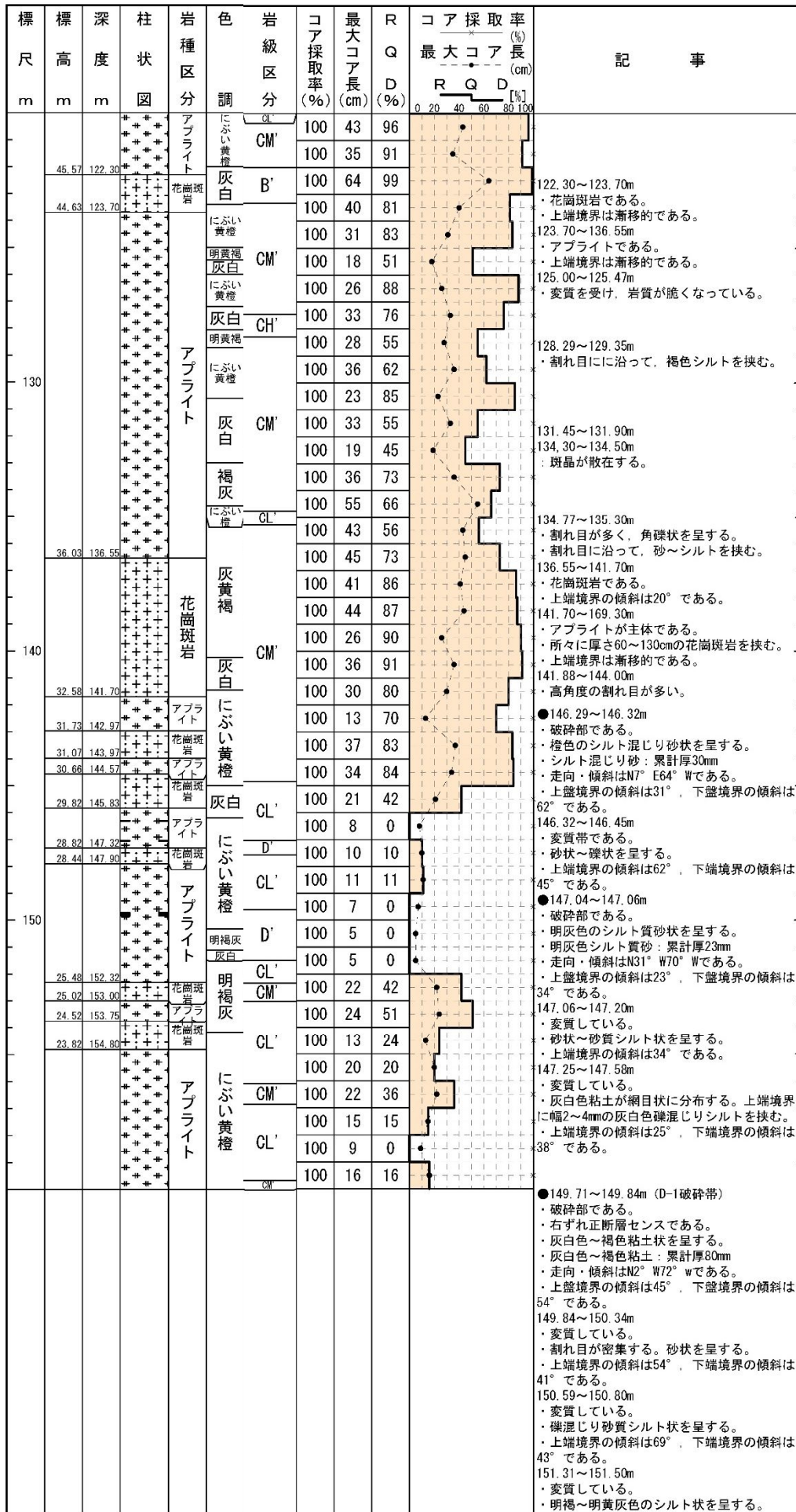
第7.4.4.25図 (2)

D-1破碎帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No. 2)

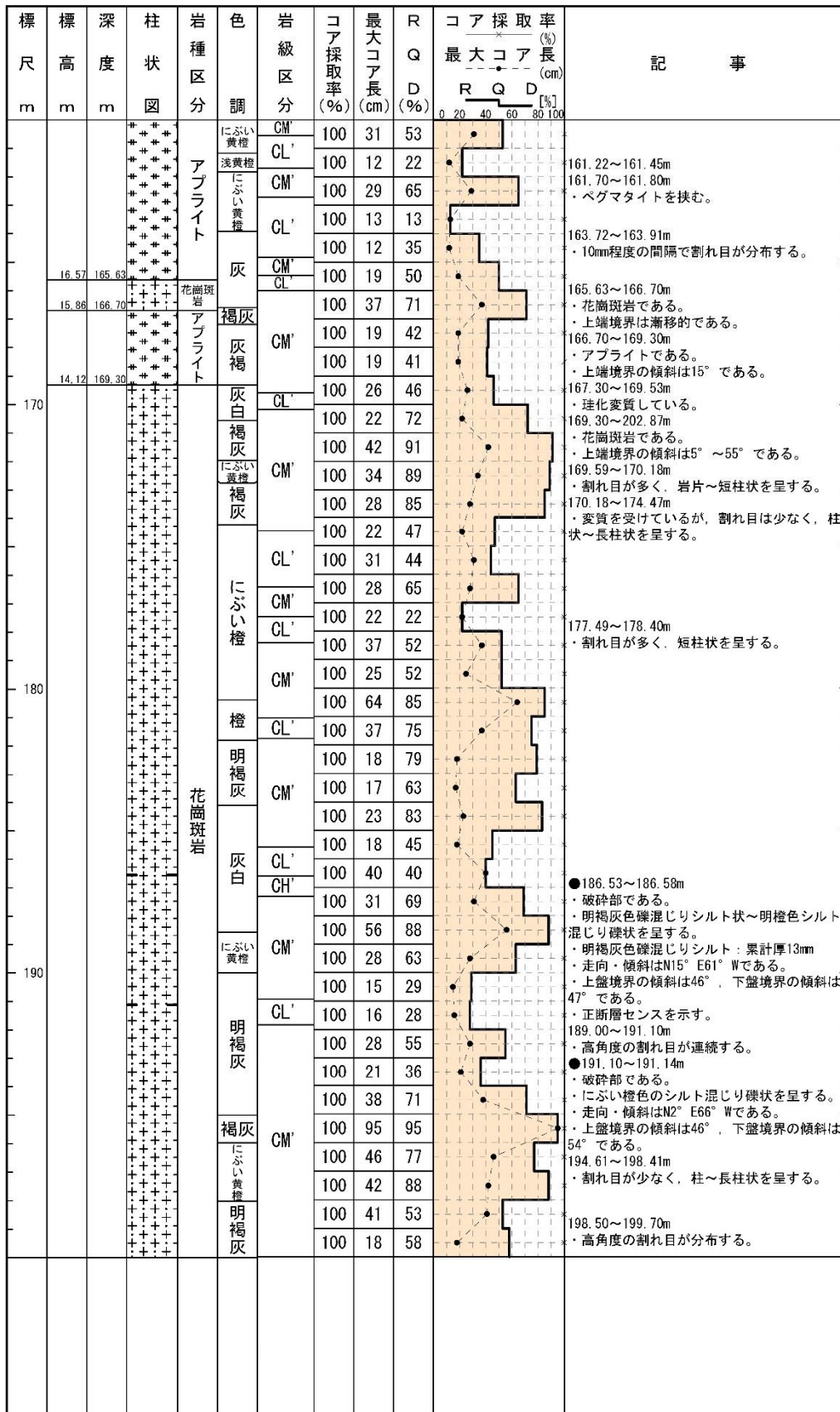


第7.4.4.25図 (3)

D-1破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方)
コア柱状図 (H19-No. 2)



第7.4.4.25図 (4) D-1破碎帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No. 2)



第7.4.4.25図 (5) D-1破碎帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No. 2)

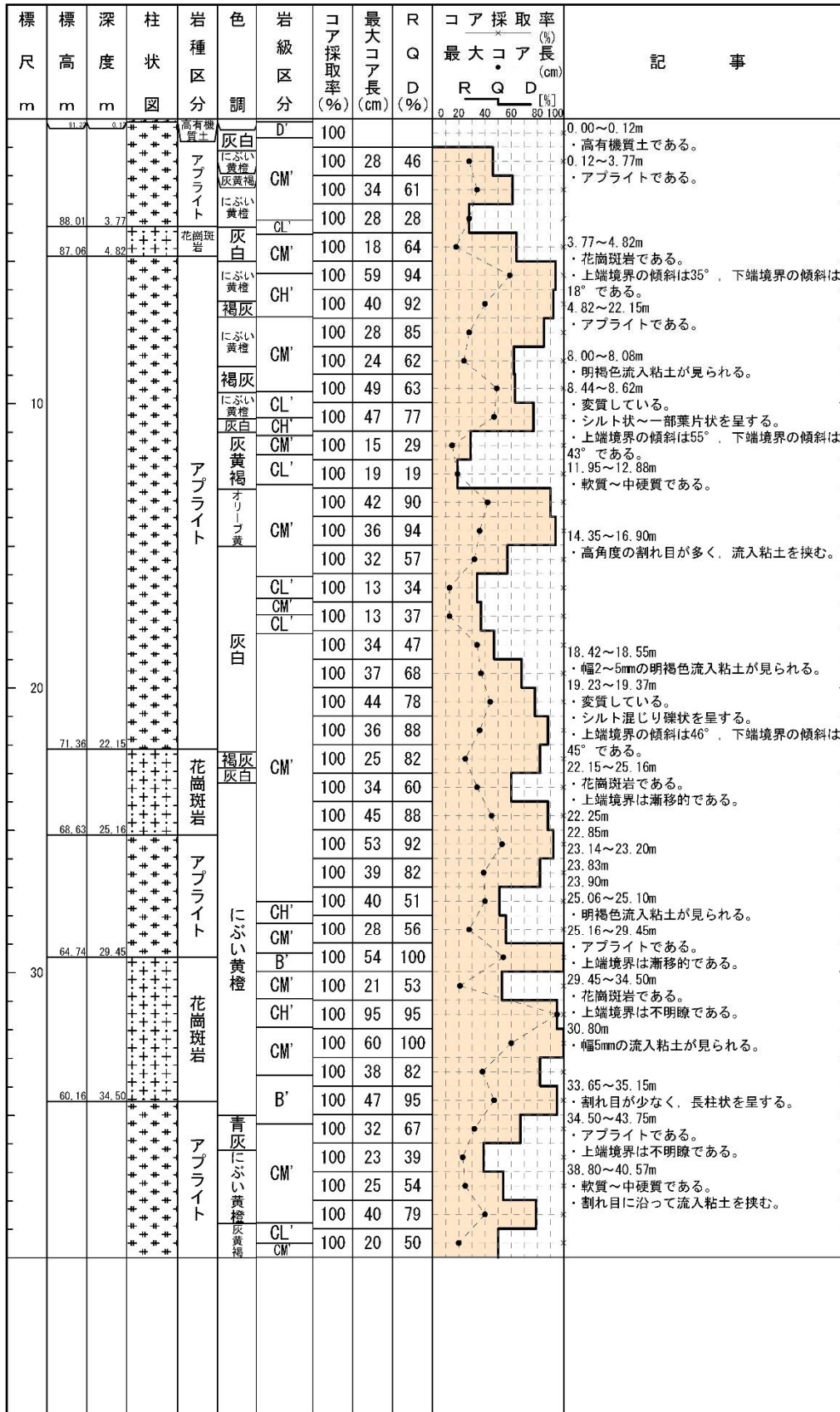
標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記事						
												202.81~202.85m	202.87~207.57m	207.57~216.70m	216.70~220.00m		
210	-8.35	202.87	+	花崗斑岩	明褐灰	CM'	100	19	53		<ul style="list-style-type: none"> ●202.81~202.85m ・破砕部である。 ・浅黄色の礫混じりシルト状~シルト混じり礫状を呈する。 ・浅黄色礫混じりシルト：累計厚25mm ・走向・傾斜はN32° E64° Wである。 ・上盤境界の傾斜は63°，下盤境界の傾斜は64°である。 ●202.87~207.57m ・アプライトである。 207.57~216.70m ・花崗斑岩である。 ●207.94~208.69m ・破砕部である。 ・灰白色の礫混じりシルト状~にぶい橙色の砂状を呈する。 ・灰白色礫混じりシルト：累計厚90mm ・走向・傾斜はNS66° Wである。 ・上盤境界の傾斜は52°，下盤境界の傾斜は59°である。 ●212.00~212.07m ・破砕部である。 ・黒色の礫混じりシルト質砂状を呈する。 ・黒色シルト質砂：累計厚40mm ・走向・傾斜はN6° W63° Wである。 ・上盤境界の傾斜は55°，下盤境界の傾斜は41°である。 ●215.42~215.46m ・破砕部である。 ・灰白色の礫混じりシルト状を呈する。 ・灰白色礫混じりシルト：累計厚35mm ・走向・傾斜はN9° W69° Wである。 ・下盤境界の傾斜は55°である。 ・逆断層構造が見られる。条線方向は30度右である。 ●216.15~216.24m ・破砕部である。 ・褐色のシルト混じり砂~礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN26° W61° Wである。 ・上盤境界の傾斜は53°，下盤境界の傾斜は63度である。 ・下盤での条線方向は50度右である。 216.70~220.00m ・アプライトである。 ・上端境界は不明瞭である。 						
						-11.49	207.57	+	アプライト			明褐灰	CL'	100	66	82	
													にぶい黄橙	CM'	100	19	
	にぶい橙	CL'	100	9	0												
			明褐灰	CL'	100	14	14										
					にぶい黄橙	D'	100		16			16					
	明褐灰	CM'					100		20	41							
			にぶい褐	CL'			100	19	73								
					明褐灰	CL'	100	18	18								
	にぶい黄橙	CM'					100	24	68								
			アプライト	CL'			100	21	21								
					明褐灰	CL'	100	6	0								
	にぶい黄橙	CL'					100	17	27								
			アプライト	CM'			100	31	42								
					明褐灰	CM'	100	21	67								
にぶい黄橙	CL'	100					28	65									
		アプライト	CL'	100			17	27									
				明褐灰	CL'	100	17	27									

第7.4.4.25図 (6)

D-1破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方)
コア柱状図 (H19-No. 2)

H19-No. 14

孔 口 標 高	T.P. 91.43m	掘 削 長	150.00m
---------	-------------	-------	---------



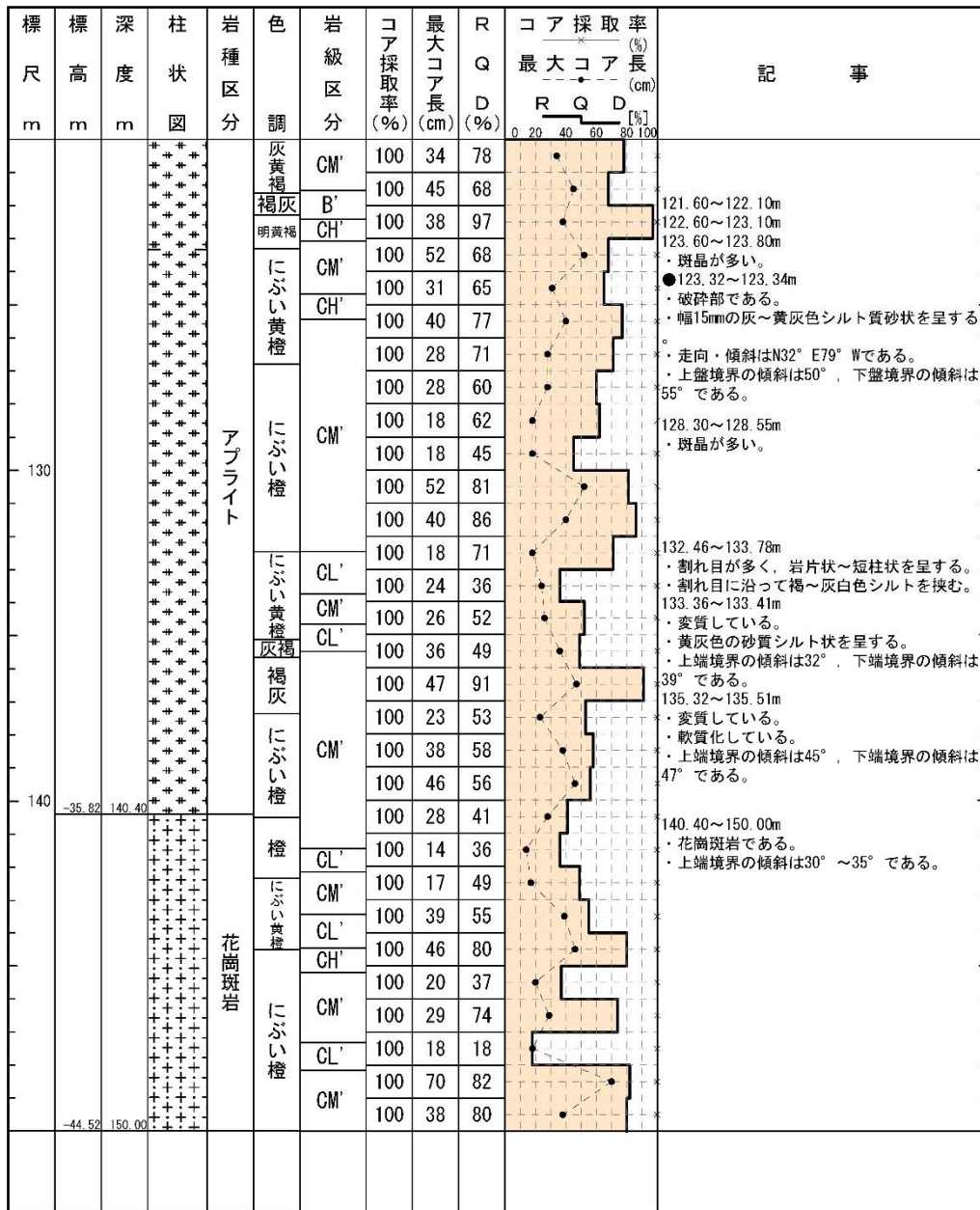
第7.4.4.23図(1)_D-1破碎帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No. 14)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記 事		
50			+	アプライト	灰黄褐	CM'	100	22	56		●40.56~40.57m ・破砕部である。 ・幅12mmの黒褐色の礫質粘土状を呈する。 ・走向・傾斜はN11° E77° Wである。		
						B'	100	63	91				
						CH'	100	41	63				
						にぶい黄橙	CM'	100	30			70	
							CH'	100	26			43	
						花崗斑岩	黄橙	100	30			48	
							淡赤橙	100	32			49	
						アプライト	灰白	100	13			23	
								100	12			24	
						アプライト	明褐灰	CL'	100			41	41
								100	23			33	
						アプライト	明褐灰	100	32			60	
100	56	72											
アプライト	明褐灰	100	55	55									
		100	88	100									
花崗斑岩	明褐灰	100	32	55									
		100	19	68									
アプライト	明褐灰	100	21	41									
		100	28	69									
花崗斑岩	にぶい黄橙	CM'	100	29	79								
		100	23	81									
アプライト	にぶい黄橙	100	26	91									
		100	35	63									
花崗斑岩	にぶい黄橙	100	28	62									
		100	39	92									
アプライト	明褐灰	100	31	76									
		100	60	90									
アプライト	明褐灰	D'	100	0	0								
		100	17	30									
花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	63	90								
		100	8	0									
花崗斑岩	明褐灰	100	63	90									
		100	8	0									
花崗斑岩	明褐灰	100	20	60									
		100	28	74									
アプライト	浅黄橙	CL'	100	18	57								
		100	30	60									
アプライト	明褐灰	100	39	79									
		100	28	43									
アプライト	明褐灰	100	23	42									
		100	36	74									
アプライト	明褐灰	100	18	71									

第7.4.4.23図(2)_D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No. 14)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 最大コア長 (%)	R Q D [cm]	記事	
													0 20 40 60 80 100
90			+	アブライト	明褐灰	CL'	100	17	42			<ul style="list-style-type: none"> 82.50~86.12m ・割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 84.30~86.12m ・軟質である。 83.05~83.40m ・斑晶がやや多い。 ●86.12~87.03m (D-1破碎帯) ・破碎部である。 ・右ずれ正断層センスである。 86.12~86.60m: シルト状~礫混じりシルト状を呈する。 86.60~86.95m: シルト混じり礫状を呈する。 86.95~87.03m: 砂質シルト状~褐色粘土状を呈する。 ・走向・傾斜はN20° E81W° である。 ・上盤境界の傾斜は47°、下盤境界の傾斜は60° である。 87.03~88.36m ・変質している。 ・砂礫状を呈する。 ・上端境界の傾斜は60°、下端境界の傾斜は54° である。 89.57~90.13m ・ペグマタイトを挟む。 93.05~93.55m ・高角度の割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 98.52~98.60m ・変質している。 ・網目状にシルトを挟む。 ・上端境界の傾斜は46°、下端境界の傾斜は50° である。 98.52~99.81m ・軟質~極めて軟質である。 ・岩片状~土砂状を呈する。 99.62~99.81m ・変質している。 ・網目状にシルトを挟む。 ・上端境界の傾斜は53°、下端境界の傾斜は53° である。 104.48~109.97m ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。 106.58~116.40m ・花崗斑岩である。 ・上端境界の傾斜は60° である。 	
						CM'	100	17	48				
						GL'	100	32	32				
							100	7	0				
							100	5	0				
							100	6	0				
						淡黄	D'	100	0	0			
							明褐灰	100	0	0			
						黄褐 明褐灰	CM'	100	12	33			
								100	10	20			
								100	20	65			
						灰白	CM'	100	26	56			
								100	42	61			
								100	9	0			
						に ふ い 黄 橙	CL'	100	24	61			
								100	24	58			
								100	28	67			
								100	17	29			
灰 白	CM'	100	20	39									
		100	19	47									
		100	43	85									
		100	36	57									
		100	30	47									
		100	35	69									
に ふ い 黄 橙	CL'	100	27	79									
		100	37	88									
110			+	花崗斑岩	アブライト	CH'	100	100	100				
						CM'	100	52	73				
						CH'	100	36	100				
						CM'	100	27	50				
						CL'	100	33	50				
						灰白	100	49	69				
						100	28	50					
						褐灰	100	38	69				
						明黄褐	100	25	63				
						褐灰	100	20	95				
100	25	80											
100	30	60											

第7.4.4.23図(3)_D-1破碎帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No. 14)



第7.4.4.23図(4)_D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No. 14)

H20-②-1

孔口標高	T.P. 69.01m	掘削長	65.00m
------	-------------	-----	--------

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取 率 (%) 最大コア 長 (cm)	R Q D [%]	記事
		0.00	腐植土	腐植土	淡橙	D'	100	0	0			0.00~0.07m ・腐植土である。
		0.07	アブライト	アブライト	淡橙	D'	100	0	0			0.07~8.05m ・アブライトが主体である。
	66.71	2.30	花崗斑岩	花崗斑岩	浅黄橙	CL'	100	17	32			2.30~2.65m 2.90~3.20m 3.95~4.34m ・花崗斑岩である。 ・アブライトとの境界は漸移的である。
	66.35	2.65	アブライト	アブライト	明褐灰	CM'	100	13	13			0.07~2.01m ・極めて軟質である。
	66.31	2.69	花崗斑岩	花崗斑岩	淡橙	CL'	100	22	22			0.07~14.79m ・傾斜25°及び60°程度の割れ目が見られる。
	65.06	3.95	アブライト	アブライト	淡橙	D'	100	4	0			
	64.67	4.34	花崗斑岩	花崗斑岩	浅黄橙	CL'	100	12	22			・割れ目に沿って褐色化し、マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。
	61.84	7.17	アブライト	アブライト	淡橙	D'	100	12	12			2.01~10.94m ・軟質である。
	61.32	7.69	ベグマタイト	ベグマタイト	橙	CM'	100	22	36			7.17~7.65m ・変質している。
	60.95	8.05	花崗斑岩	花崗斑岩	灰白橙	CM'	100	36	46			・灰白色粘土が網目状に分布する。
	59.34	9.67	花崗斑岩	花崗斑岩	灰白	CL'	100	11	22			・上端境界の傾斜は22°、下端境界の傾斜は17°である。
	58.95	10.06	黒雲母花崗岩	黒雲母花崗岩	橙	CM'	100	32	61			7.71~8.81m ・傾斜40°~75°程度、幅1mm以下の石英脈を多数挟む。
	58.07	10.94	花崗斑岩	花崗斑岩	明赤褐	CM'	100	14	40			8.05~10.94m ・花崗斑岩である。
	57.88	11.21	ベグマタイト	ベグマタイト	明黄橙	CL'	100	39	60			・アブライトとの境界は漸移的である。
			花崗斑岩	花崗斑岩	浅黄橙	CL'	100	42	53			9.67~10.06m ・黒雲母花崗岩を挟む。
			花崗斑岩	花崗斑岩	明褐	CM'	100	31	68			10.94~11.21m ・ベグマタイトである。
			花崗斑岩	花崗斑岩	明黄橙	CL'	100	36	55			・径5~50mm程度の石英、長石からなる。
			花崗斑岩	花崗斑岩	明赤褐	CM'	100	48	77			10.94~14.79m ・中硬質である。
			花崗斑岩	花崗斑岩	明黄橙	CL'	100	36	73			11.21~32.25m ・花崗斑岩である。
			花崗斑岩	花崗斑岩	明赤褐	CM'	100	27	47			14.79~18.26m ・軟質である。
			花崗斑岩	花崗斑岩	明黄橙	CL'	100	23	56			14.79~18.69m ・傾斜70°程度の割れ目が見られる。
			花崗斑岩	花崗斑岩	明赤褐	CM'	100	31	55			・割れ目に沿って褐色化し、マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。
			花崗斑岩	花崗斑岩	明黄橙	CL'	100	33	81			18.26~29.70m ・硬質である。
			花崗斑岩	花崗斑岩	明赤褐	CM'	100	38	95			18.69~29.55m ・傾斜20°及び70°程度の割れ目が見られる。
			花崗斑岩	花崗斑岩	明黄橙	CL'	100	38	71			・割れ目節理に沿って褐色化し、一部灰白色粘土を伴う。
			花崗斑岩	花崗斑岩	明赤褐	CM'	100	36	77			24.61m ・傾斜80°程度、幅1~2mm程度の石英脈を挟む。
			花崗斑岩	花崗斑岩	明黄橙	CL'	100	30	77			26.62m ・傾斜76°程度、幅1~2mm程度の石英脈を挟む。
			花崗斑岩	花崗斑岩	明赤褐	CM'	100	18	53			29.55~39.55m ・傾斜45°及び75°程度の割れ目が見られる。
			花崗斑岩	花崗斑岩	明黄橙	CL'	100	16	42			
			花崗斑岩	花崗斑岩	明赤褐	CM'	100	22	33			
			花崗斑岩	花崗斑岩	明黄橙	CL'	100	23	82			
			花崗斑岩	花崗斑岩	明赤褐	CH'	100	37	80			・割れ目に沿って褐色化し、マンガンを伴うことが多い。
			花崗斑岩	花崗斑岩	明赤褐	CH'	100	37	80			29.70~33.90m ・中硬質である。
			花崗斑岩	花崗斑岩	明赤褐	CH'	100	37	80			32.01m ・傾斜66°程度、幅5~10mm程度の石英脈を挟む。マンガンを伴う。
			花崗斑岩	花崗斑岩	明赤褐	CH'	100	37	80			32.22m ・傾斜67°程度、幅10mm程度のマンガン脈を挟む。
			花崗斑岩	花崗斑岩	明赤褐	CH'	100	37	80			32.25~33.48m ・アブライトである。
			花崗斑岩	花崗斑岩	明赤褐	CH'	100	37	80			・上位の花崗斑岩との境界は漸移的である。
			花崗斑岩	花崗斑岩	明赤褐	CH'	100	37	80			33.48~65.00m ・花崗斑岩が主体である。
			花崗斑岩	花崗斑岩	明赤褐	CH'	100	37	80			・上位のアブライトとの境界は傾斜78°程度である。
			花崗斑岩	花崗斑岩	明赤褐	CH'	100	37	80			33.90~44.37m ・硬質である。

第7.4.4.24図(1)_D-1破碎帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H20-No. ②-1)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)			記 事
										最大 コア長 (cm)	R	Q	
				花崗斑岩	明褐灰	CH'	100	46	69				
			にぶい橙		CM'	100	17	71					
			明褐灰		CH'	100	10	10					
			にぶい橙		CM'	100	25	88					
			アプライト		CL'	100	18	42					
			花崗斑岩		CM'	100	38	87					
			アプライト		CL'	100	15	25					
			黄橙		D'	100	8	0					
			灰白		D'	100	3	0					
			にぶい橙		CL'	100	2	0					
			明褐灰	CL'	100	7	0						
			灰白	D'	100	8	0						
			にぶい橙	D'	100	2	0						
			明赤灰	CL'	100	0	0						
			にぶい橙	D'	100	3	0						
			明赤灰	CL'	100	4	0						
			明赤灰	CL'	100	14	14						
			明赤灰	CL'	100	10	10						
			明赤灰	CL'	100	6	0						
			明赤灰	CL'	100	8	0						
			明赤灰	CL'	100	7	0						
			明赤灰	CL'	100	12	54						
			明赤灰	CL'	100	7	0						
			アプライト	明褐灰	100	8	0						
			花崗斑岩	明褐灰	100	10	10						
			アプライト	明褐灰	100	15	25						
			花崗斑岩	明褐灰	100	13	13						
			花崗斑岩	明褐灰	100	8	0						
			花崗斑岩	明褐灰	100	15	25						
			花崗斑岩	明褐灰	100	13	13						
			花崗斑岩	明褐灰	100	8	0						
			花崗斑岩	明褐灰	100	15	25						
			花崗斑岩	明褐灰	100	13	13						
			花崗斑岩	明褐灰	100	8	0						
			花崗斑岩	明褐灰	100	15	25						
			花崗斑岩	明褐灰	100	13	13						
			花崗斑岩	明褐灰	100	8	0						
			花崗斑岩	明褐灰	100	15	25						
			花崗斑岩	明褐灰	100	13	13						
			花崗斑岩	明褐灰	100	8	0						

第7.4.4.24図(2)_D-1破碎帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H20-No. ②-1)

H24-B14-2

孔口標高	T.P.	7.06m	掘削長	150.00m
------	------	-------	-----	---------

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)			記 事
										最大コア長 (cm)	R	Q	
				埋土	明褐		100					0.00~6.66m ・埋土である。	
		2.35			灰		100						
					明褐		100						
		6.66			褐灰		100					6.66~8.39m ・礫質砂である。 ・径2~5mmの細礫を含む。	
		1.13			砂混り有機質シルト		100					8.39~8.83m ・砂混り有機質シルトである。 ・未炭化木片を含む。	
		0.82			砂混り有機質シルト		100					8.83~9.54m ・砂混り有機質シルトである。 ・未炭化木片を含む。	
		0.31			砂混り有機質シルト		100					9.54~11.12m ・砂混り有機質シルトである。 ・未炭化木片を含む。	
		-0.80			砂混り有機質シルト		87					11.12~12.04m ・砂混り有機質シルトである。 ・径2~50mmの花崗斑岩礫を含む。	
		-1.45			砂混り有機質シルト		100					12.04~12.69m ・砂混り有機質シルトである。 ・径2~50mmの花崗斑岩礫を含む。	
		-1.91			砂混り有機質シルト		100					12.69~13.09m ・砂混り有機質シルトである。 ・径2~50mmの花崗斑岩礫を含む。	
		-2.20			砂混り有機質シルト		100					13.09~13.86m ・砂混り有機質シルトである。 ・径2~50mmの花崗斑岩礫を含む。	
		-2.74			砂混り有機質シルト		100					13.86~16.24m ・砂混り有機質シルトである。 ・径2~50mmの花崗斑岩礫を含む。	
		-4.42			砂		100					16.24~19.89m ・砂である。 ・径2~50mmの花崗斑岩礫を含む。	
					灰白	D'	100	0	0			19.89~24.48m ・シルト混り砂である。 ・砂礫である。	
					明褐灰	D'	100	0	0			24.48~26.62m ・割れ目が多く、砂~角礫状を呈する。	
					灰白	D'	100	2	0			26.62~32.40m ・花崗斑岩である。 ・強風化、変質部である。	
					明褐灰	CL'	100	4	0			32.40~32.67m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。	
					明褐灰	CL'	100	10	10				
					明褐灰	CL'	100	4	0				
					明褐灰	D'	100	0	0				
					明褐灰	D'	100	0	0				
					明褐灰	D'	100	0	0				
					明褐灰	D'	100	7	0				
					明褐灰	D'	100	4	0				
					明褐灰	D'	100	9	0				
					明褐灰	D'	100	16	16				
					明褐灰	D'	100	13	13				
					明褐灰	D'	100	15	26				
					明褐灰	D'	100	9	0				
					明褐灰	D'	100	6	0				

第7.4.4.31図(1)_D-1破碎帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間)
コア柱状図 (H24-B14-2)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記 事
40				花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	9	0	●	35.14~35.74m ・風化部である。
					明褐灰		100	9	0		
					明褐灰		100	6	0		
					にぶい 黄橙 浅黄橙	D'	100	0	0	●	37.52~37.89m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 38.10~38.27m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる
							100	5	0		
					明褐灰	CL'	100	5	0	●	・灰白色~淡黄白色の礫混じり砂状を呈する ・累計層厚11cm ・上端境界の傾斜は40°、下盤境界の傾斜は50°である。
							100	10	10		
					灰黄褐	CL'	100	5	0	●	42.13~42.71m 43.51~45.20m ・強風化部である。
							100	13	13		
					褐灰	CL'	100	16	16	●	45.90~47.37m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 ●47.37~47.40m ・破砕部である。
							100	5	0		
					ノンコア	CL'	100	3	0	●	・右ずれセンスである。 ・灰白~褐色の礫混じり粘土状~粘土混じり礫状を呈する。 ・灰白色粘土：累計厚10mm ・走向・傾斜はN38° E85° NWである。
							100	5	0		
					褐灰	CL'	50	0	0	●	●49.24~49.55m ・破砕部である。 ・正断層センスである。
							57	7	0		
					明灰褐	CM'	100	8	0	●	・緑灰~灰白~褐灰色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰~灰白~淡赤色粘土：累計厚33mm ・見かけ傾斜は35°である。
							100	7	0		
					明赤灰	CL'	100	12	12	●	50.50~51.43m ・コア欠。(ボアホールテレビで破砕部がないことを確認)
							100	5	0		
					灰赤	CL'	100	19	19	●	52.92~53.33m ・強風化部である。 ●53.33~53.36m ・破砕部である。
100	4	0									
赤灰	CL'	100	12	12	●	・正断層センスである。 ・灰白色の礫混じり粘土状~粘土混じり礫状を呈する。					
		100	3	0							
褐灰	CL'	100	3	0	●	・灰白色粘土：累計厚15mm ・みかけ傾斜は15°である。					
		100	3	0							
アプライト	CM'	100	5	0	●	60.65~150.00m ・アプライトである。 ●60.85~61.12m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる					
		100	10	20							
明褐灰	CL'	100	10	10	●	・明黄褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN35° E88° NWである。					
		100	10	10							
褐灰	CM'	100	10	22	●						
		100	10	10							
黄灰	CL'	100	10	10	●	65.32~65.86m 68.23~68.63m ・強風化部である。					
		100	9	0							
褐灰	CL'	100	7	0	●						
		100	7	0							

第7.4.4.31図(2)_D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間)
コア柱状図 (H24-B14-2)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記 事
110			+	ア プ ラ イ ト	褐 灰	CL'	100	7	0	●	●105.54~105.61m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・走向・傾斜はN16° E84° Eである。 107.29~107.45m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 ●109.16~109.46m(D-1破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・明緑灰色の礫混じり粘土状~粘土混じり礫状を呈する。 ・明緑灰~灰色粘土：累計厚30mm ・走向・傾斜はN1° W76° Wである。 109.46~112.49m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 110.95~111.16m ・変質が著しく暗緑灰色に変色する。 114.66~116.33m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
							100	4	0	●	
							100	3	0	●	
							100	8	0	●	
							100	15	26	■	
							100	5	0	●	
							100	3	0	●	
							100	11	21	■	
							100	12	23	■	
							100	11	11	■	
							100	7	0	●	
							100	9	0	●	
							100	10	10	■	
							100	7	0	●	
							100	7	0	●	
							100	4	0	●	
							100	5	0	●	
							100	4	0	●	
							100	4	0	●	
							100	5	0	●	
100	9	0	●								
100	5	0	●								
100	9	0	●								
100	7	0	●								
100	6	0	●								
100	5	0	●								
100	0			131.00~132.00m ・コア欠。(ボアホールテレビで破砕部がないことを確認)							
100	3	0	●	132.00~133.00 ・割れ目が多く、角礫状を呈する。							
100	5	0	●	134.00~135.00m ・コア欠。(ボアホールテレビで破砕部がないことを確認)							
100	0			135.00~135.50m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。							
100	50	2	0	135.50~136.00m							
100	75	3	0	136.50~136.75m							
100	4	0	●	・コア欠。(ボアホールテレビで破砕部がないことを確認)							
100	5	0	●								
100	4	0	●								

第7.4.4.31図(4)_D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間)
コア柱状図 (H24-B14-2)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記事
		-99.01	150.00	アブライト	灰褐	GL'	100	5	0		140.04~140.33m 割れ目が多く、角礫状を呈する。
				赤灰	100		3	0			
				赤灰	100		6	0			
				灰	100		8	0			
				赤灰	100		11	11			
				赤灰	100		10	10			
				赤灰	100		9	0			
				赤灰	100		3	0			
				赤灰	100		3	0			
				赤灰	100	9	0				

第7.4.4.31図(5)_D-1破碎帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間)
コア柱状図 (H24-B14-2)